

東京工業大学
学生支援センター
年報第1号

2022年度 活動報告



目次

巻頭言（学生支援センター長 岡村哲至）	1
悩みながら自分らしい明日へ（学生相談部門長 道又紀子）	3
ミスマッチを減らすには（学生相談室副室長 一瀬宏）	4
電話相談デスクの窓から（学生相談担当 河内宣之）	4
多様性と包括性を尊重する教育環境の実現に向けて（バリアフリー支援担当 曾我有可）	5
学生達の未来に向けて（未来人材育成部門長 伊東幸子）	6
東京工業大学のキャリア支援（キャリア支援担当 守島利子）	7
学生たちの成長可能性を信じて（自律支援担当 山田恵美子）	7

1. 学生支援センター沿革

学生支援センターとは	9
沿革	9
学生支援センター組織図	9
設備	10
I. 学生相談部門設備	10
II. 未来人材育成部門設備	11

2. 学生支援センター 活動報告

学生相談部門 活動報告	13
I. 学生相談室	13
II. 電話相談デスク	15
III. バリアフリー支援室	16
IV. 学外での活動報告	18
未来人材育成部門 活動報告	19
I. 個人相談	19
II. ガイダンス	22
III. イベント・セミナー	25
IV. 学生プロジェクト	28
V. Taki Plaza での学生との協働	32
VI. 学外での活動報告	33
VII. その他	34

3. 今後に向けての課題	
学生相談部門 今後に向けての課題～統合そして多様性にむけて～	38
未来人材育成部門 今後に向けての課題	39
4. 2022年度 学生支援センタースタッフ一覧	
2022年度 学生支援センター委員名簿一覧	41
2022年度 学生相談部門スタッフ一覧	42
2022年度 学生相談部門委員名簿一覧	43
2022年度 未来人材育成部門スタッフ一覧	45
2022年度 未来人材育成部門委員名簿一覧	46
5. 参考	
将来構想資料	49
歴代学生相談室室長	61
リンク集	62

巻頭言



学生支援センター長

副学長 岡村 哲至

本学に学生支援センターが2006年に設置されて以来、初めて年報を発行することになりました。ここでは、学生支援センターが設置される前からの歴史を振り返りたいと思います。

2002年7月30日の“21世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会”の下に設置された“教育改革部会”の中間報告で、5つの重要検討項目が指摘され、それぞれの項目ごとにワーキンググループ（WG）を設置して検討をすることが提案されています。その一つに、学生支援の強化が挙げられています。この背景には、2000年6月に文部省高等教育局から提出された「大学における学生生活の充実方策について」という調査研究会の報告書を受けて、「学生の立場に立った大学づくり」という雰囲気が各大学で認識され始めたことがあります。ちなみに、他の4つの重要項目は、学部教育と大学院教育の連携確立、入試制度の改革、国際理工学系の新専攻設立、ITを活用した教育促進です。さっそくその年には、“学生支援WG”が設置されて、加藤雅治名誉教授（当時は教授）が主査となられて審議・検討結果報告書が教育改革部会に提出されおり、「学生支援センター」（仮称）を両キャンパスに設置することが提案されています。

“教育改革部会”解散後には、このWGは教育推進室の下に改めて位置付けられました。学生対応窓口業務、相談、講義、研究指導などの現場で把握した、学生と学生生活の現状を分析・検討し、具体的かつ実効性のある施策が提案されました。齋藤憲司教授（当時は助教授）が主査、加藤雅治名誉教授が副主査を務められ、まとめられた第2回提案書（2004年11月15日）でも、「学生支援センター設立に向けて」が再び盛り込まれ、この年度内に、教育推進室の下に“学生支援センター検討WG”が設置されました。ここでは学生支援センター設立に向けて本格的に審議・検討が行われました。主査が加藤雅治名誉教授、副主査が齋藤憲司教授でした。さらに“学生支援センター設置運営WG”が設けられ、本センターの実現に向けて具体的な項目について議論が行われました。

当時に認識されていた学生支援体制の問題点として、(1)学生支援部署・組織の分散、(2)キャンパス間の支援体制の格差、(3)カウンセリング相談・メンタルヘルス相談の増加と深刻化、(4)留学生支援の強化、(5)キャリア支援の強化、(6)学生の居場所及び福利厚生施設の必要性が挙げられています。これらの諸問題の解決策として、部局や組織の単なる寄せ集めではなく、必要に応じて組織の改組・改編も視野に入れた学生支援と学生支援センター構想がまとめられ、2005年7月21日に報告書として提出されました。

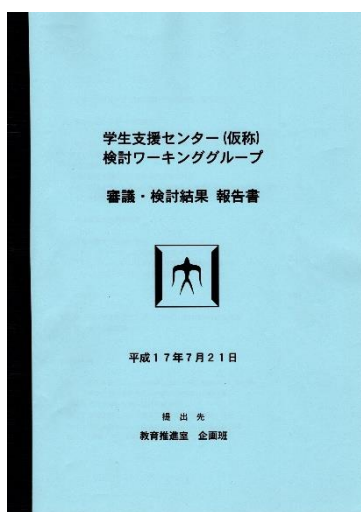
その構想が承認され、2006年に「学生支援から健康面のケアまでキャンパスライフに係わるあらゆる支援を総合的に実施」という謳い文句で、学習支援部門、健康支援部門、キャリア支援部門、キャンパスライフ支援部門、運営部門の5部門体制で学生支援センターが設立されました。学生支援センター長には三木千壽理事・副学長（教育担当）（当時）が、副センター長には加藤雅治名誉教授が就任され、全学的な立場から学生支援を推進するという位置づけが明確になっています。設立時の本センターについては、東工大クロニクル No.412 July 2006 に紹介されています。

その後、何度か改編がなされ、2019年には相談部門、バリアフリー支援部門、キャリア支援部門、修学支援部門、自律支援部門、国際交流支援部門の6部門体制で運営されていました。当時の状況として、2016年度の教育改革から4年近くが経過し、学生の気質やニーズが変化していることや、本センターを担当している常勤教員の本務先は学院や研究院で、各部門会議の委員として本センター業務に携わっており、学生支援そのものが専門ではないこと、また、大学として用意できるリソースも限られており、学生支援活動全体に向けて、必要性が高いだけでなく効果の上がる取り組みに重点投資していくことが必要であることなど、課題を抱えていました。

2020年にはこのような課題を解決するために、相談部門とバリアフリー支援部門をまとめて学生相談部門とし、キャリア支援部門、修学支援部門、自律支援部門、国際交流支援部門をまとめて未来人材育成部門とする2部門体制に改編し、それぞれの部門長には、その分野が専門の常勤教員をお迎えするという、かなり大きな改革案が提案されました。改革案は認められ、2021年4月には、学生相談部門には、カウンセラーとして豊富な経験があり臨床心理学・学生相談が専門である道又紀子教授を、未来人材育成部門には、経営学（人的資源管理）が専門でキャリアアドバイザーの経験も持たれる伊東幸子教授をお迎えしました。

さらに、2021年4月から本学に学生支援担当の副学長が置かれることになり、これまでは本センター長を教育担当の理事・副学長が兼任していましたが、改編後には副学長（学生支援担当）がその任を務めることになりました。

学生支援活動というものは、学生の気質やニーズはもとより、社会情勢などのあらゆることの変化を鑑みながらレスポンス良く対応していなければならない、常に現状分析と今後の方針の見極めが必要です。たとえば直近の課題としては、ダイバーシティ&インクルージョンに対応する学生支援の推進、博士課程学生への経済支援や就職支援の強化、企業の採用活動の早期化への対応などが挙げられます。本年報では、自己評価という意味合いも含めて、2022年度に本センターで行った活動と今後の課題および活動方針をまとめました。



学生支援センター構想がまとめられた報告書



学生支援センター設立時のパンフレットより

悩みながら自分らしい明日へ

学生相談部門長・教授 道又 紀子

学生相談部門は、旧学生支援センターの相談部門（学生相談室・電話相談デスク）、バリアフリー支援部門がひとつになって誕生しました。

学生はどのようなことで相談に来るのでしょうか？それには、様々な要因が影響しますが、例えば近年では大学の急速な変化やコロナ禍などが影響しています。歴史的には12世紀に誕生したと言われる大学ですが、常に変化を繰り返してきました。中世では、教師が都市をまわり、集まった学生に講義をするという建物をもたない時代もあったようです。現在日本の理工系の大学は、リベラルアーツ及び早期の専門教育を学ぶ学部と、より高度な専門分野を学ぶ大学院によって成り立っており、英語と日本語を媒介とした出身国にこだわらない自由な学びの場となりつつあります。

東工大も、入学後の優れたリベラルアーツ教育とレベルの高い専門教育が複雑に織りなすカリキュラムとなっているため、履修にまつわる戸惑いや相談も多数あります。学生にとってはこれをこなしていくだけで一苦勞となっています。一方で人生100年時代を迎え、青年期は非常に長くなったと言われています。

青年期の試行錯誤は、「自分とは何か」「これからどう生きていくのか」という重要な問いに対する答えを見つける旅でもあります。複雑なカリキュラムの中で高度な専門性を身に付ける一方で、自己形成に向けた旅をしていくことは至難の業ともいえます。

学生相談室・電話相談デスクの教員相談員は、これまで学生を育ててきた経験から、専門を深める知恵はもちろん、専門への迷い、教員との関係などについて、ゆっくり耳を傾けております。学生相談室の歴史は意外に古く、その発足は昭和44年になります。「学長直属で、いずれの部局にも属さずに各部局や委員会から等距離にあり、学生のあらゆる問題の窓口となり、学生の立場になって相談のり、適切に各部門と連携し早期解決を図る」という理念が書面に残されています。その理念は様々な改組を経ても、今も変わることなく引き継がれています。

一方バリアフリー支援部門は大学の歴史の中では新しい部門となります。障がいをもった児童生徒の教育の歴史は長く、統合教育をめぐっても様々な議論がなされてきました。その後、平成19年に国連にて日本が署名した「障害者の権利に関する条約」を受け、障がい者の人権を守り、障がいに基づく差別（合理的配慮の否定を含む）をなくすことが国際的なミッションとなりました。東工大のバリアフリー支援室は平成30年にスタートし、様々な障がい等をもった学生に各学院がどのような配慮をおこなうと平等な教育となるのかをナビゲートする役割を担っています。やがて大学が専門家を介さなくても、多様性に対応して、自然に支援が出来る世界となるよう、多彩な活動もおこなっています。

最後に、相談部門は、学内の様々な部門、大学を構成する一人一人の方々との連携により成り立っています。皆様にこころより感謝申し上げますとともに、今度も連携を積み重ねていけるよう努力してまいります。

ミスマッチを減らすには

学生相談室副室長・教授 一瀬 宏

相談室委員として多くの学生の悩みや相談を聞いてきた。すずかけ台キャンパスには学部生が少ないので、相談の多くは研究室に関することだった。個人的な印象となるが、研究室に所属した学生のうち一時的な不登校も含めると10人に一人くらいは不登校となる印象がある。不登校の原因は様々だが、研究室のミスマッチの問題は深刻である。ミスマッチは学生にとって大きな心の傷になるばかりでなく、教員側にとっても学生が活躍してくれないことは研究アクティビティを損なうことになり、大学全体として対策を考える必要がある。大学院入試の成績で研究室配属を決める現在の方法は、変革が必要な時期に来ていると感じる。研究室配属はコースとして入学者を決めた後で行うことを提案したい。入学決定後に第1クォーターの2ヶ月間でコースとして必要となる座学の講義を集中的に履修しながら、研究室ローテーションや説明会などを組んで研究内容や指導教員との理解を深めて、ミスマッチを少なくする工夫ができる。この間に同期で入学した学生相互のコミュニケーションもできるだろう。希望研究室が集中する場合には、第1クォーターの座学の成績により配属優先順位を決めることもできる。

修士の2年間は短いので、入学してから研究室を決めるまでに1~2ヶ月かかってしまうことはデメリットだが、ミスマッチが減って研究室が活性化して、博士課程への進学率も上昇すれば、デメリットを上回るプラスの効果が期待できると思う。

電話相談デスクの窓から

学生相談担当・特任専門員 河内 宣之

“とにかく、すぐに相談できる窓口を！”をモットーに2名の退職教員が週4日間、相談にあたっている。学生の皆さんの悩みは広く、かつ深い。学部学生のうちは、初めて出会う学びのシステムに戸惑いながら成長し、研究室配属後は、自他の能力比較と対峙しながら成長することになる。決して生易しいことではない。さらに研究室配属後は、比較的小さな社会に、どっぷりと、24時間浸りっぱなしの生活となるので、周囲、なかならず指導者との相性の良し悪しが、なやみやトラブル発生の要因になりがちである。このように、多様なうえに、そこに学生の個性が加わるので、悩みが、広範囲かつ深くなりやすい。さてこのような悩みやトラブルを抱えた学生さんは、どう対処するのであろうか？間違いなく言えることだが、彼らは、そのような事態になるまで、そのような事態に立ち至ることを全く想定していなかったであろう。彼らは、準備がないまま、危機的状況を迎えるのである。立ち尽くしてしまい、時間だけが経ってしまうのも当然であろう。それゆえに、“とにかく、すぐに”出番となる。相談しやすく、かつ包括的な相談窓口であることが電話相談デスクの売りである。したがって、必要に応じて、より適した相談窓口につないでいくことも多い。かといって常に一過性の相談に終わるわけではなく、継続的に相談を積み重ねていくこともある。大学院生が直面しやすいのであるが、研究にかかわる相談やトラブルに関しては、元教員の経験を生かして、その原因をも考えながら、相談できることが強みである。“とにかくすぐに”相談できる窓口、それが電話相談デスクである。もちろん、『名は必ずしも体を表さず』であり、電話だけがツールではなく、対面での面談や昨今はzoom面談も多い。

多様性と包括性を尊重する教育環境の実現に向けて

バリアフリー支援担当 副室長・特任専門員 曾我 有可

本学バリアフリー支援室では、「言語や文化、環境、ジェンダー、年齢、障がいの有無等に関わらず、学生誰もが、幅広く存分に学び、学生生活においてもグローバルな視点から様々分野にチャレンジできる心が養えるよう、有意義なキャンパスライフ及び学生の主体的学びを支援する環境の充実を図る」というミッションのもとに、入学直前直後から支援を開始し、修学上の困りごとを解消していくプロセスを通して、青年期の成長モデルを基盤とした支援を実践しています。

障がいのある学生の修学に必要なサポート（合理的配慮）が提供されるための調整や連携はもちろんですが、障がい学生とは定期面談をおし、学生の自己と社会に関して多様な気づきや発見を得る場を設けています。教職員からの障がいのある学生、合理的配慮の依頼はないけれども気になる学生のサポートや配慮に関する相談・助言もおこなっています。

その他、多様性に関する理解・啓発活動として、「人にやさしい社会」をリードする人材の育成を推進しています。その一環として、「2級アクセシビリティリーダー」の資格が取得できるプログラムを実施しています。また、本学のアクセシビリティを学生と共に考え、2022年度「WEB版東工大アクセシビリティマップ」を制作いたしました。最寄り駅からの各建物へのアクセスや、各建物の多目的トイレ他バリアフリー設備状況を案内しています。

こういった活動を通し、日々、様々な障がいがあっても彼らが他の学生と同様に大学や社会の財産として広く認知され、さまざまな学生が持つ、豊かな才能が社会全体の発展に寄与することができるよう支援の充実を図っています。

学生達の未来に向けて

未来人材育成部門長・教授 伊東 幸子

未来人材育成部門は、旧学生支援センターのキャリア支援部門、自律支援部門、国際交流支援部門、修学支援部門（設立順）の4部門が1つになって誕生しました。英語名称は Student Success Support Section です。「Student Success」は、いくつか定義があり、たとえば、ある定義に従うと下記の7項目が含まれます。未来人材育成部門は、すべての東工大生を対象とし、学生達一人一人の多様な「Student Success」を支援する活動を行います。

- ① 学業達成（学位取得）
- ② 有意義な経験をすること
- ③ 学生生活に満足すること
- ④ 社会との関係を考慮した上で必要な知識・スキル・能力を獲得すること
- ⑤ 学業を中断しないこと（継続すること）
- ⑥ 学修目標を達成すること
- ⑦ 卒業後に良い業績を達成すること

未来人材育成部門には、学生支援の専門職が所属しています。キャリア支援部門にはキャリアアドバイザー、自律支援部門には自律支援コーディネーター、修学・国際交流支援部門には、学修コンシェルジュがいます。これらの専門職は、それぞれ、就職やキャリア選択の支援、自律的な活動の支援、履修と在学中の進路支援（アカデミックアドバイザー）及び留学生を含む学生同士の交流支援と役割が異なりますが、全員が共通して学生との個人相談を行い、正課ではなく正課外活動の枠組みで学生の支援を行っています。キャリアと修学・国際は、それぞれ、就職と入学時の全学ガイダンスを行います。自律は、公共性がある学生活動の創出と継続を支援することにより、学生達のアントレプレナーシップ醸成を目指します。2006年のセンター創設以来、順次部門が出来てバラバラに活動していたこの4部門が未来人材育成部門として1つになることができました。東工大生の入学から卒業までを一気通貫させ、かつ、主体性への働きかけという観点では大きなアドバンテージを持つ正課外活動の枠組みで、東工大の学生達がより大きくはばたけるように日々活動をしています。

未来人材育成部門は、部門相談役として、実施委員会委員として日々の業務を見守り、アドバイスを下さり、必要な時に大きな力で助けてくださる多くの先生方と、日常業務の事務をたくましく担ってくださっている学生支援課をはじめとする事務の皆様を支えられています。全学支援組織のため、全学の教職員の皆様にお世話になる機会も多いです。蔵前工業会との協業はキャリア支援で始まった2014年からと歴史が古く、自律支援は他大学との連携、修学・国際交流支援では企業との連携も行っています。2022年からは東京医科歯科大学の学生支援センターの皆様との交流も始まりました。

全学組織の中にある強みを最大限に活かし、専門職と事務職がそれぞれの強みを活かして有機的に協業し、プロジェクトごとに様々な形で学内教職員の皆様、学外の方々と融合し、これまでにない新しい形の学生支援を実現していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

東京工業大学のキャリア支援

キャリア支援担当・マネジメント教授 守島 利子

東工大の全学のキャリア支援は、2006年11月に学生支援センターキャリア部門が発足すると同時に開始されました。従来、専門分野を活かした就職に関して、各系・コースの就職担当教員と事務職員がきめ細かく対応し、研究室の指導教員も進路の相談を受けるというやり方が基本になっています。昨今は学生の進路・就職が多岐に渡るようになり、学内の関係部署とも連携しながら、全学の学生のニーズに応じたキャリア支援を併せて行っています。現在、キャリア支援担当は、主に①学生のキャリア（進路・就職）相談、②キャリアガイダンスの開催、③各系・コースの就職担当との情報交換、④学生の進路・就職情報の収集・提供と関連調査の実施、⑤企業インタビューによる採用情報の収集と情報提供をしています。

就職を取り巻く社会環境、企業の状況、そして学生の意識、これらの変化に伴って個人の相談内容も多様化しています。キャリア支援担当として大事にしているのは、学生一人ひとりが、しっかりと自身の強みを意識しキャリアを考え、戦略的に就職活動を行うことです。東工大での勉強や研究活動は、専門教育の知識だけではなく、物事の本質を捉える力、課題解決を行う力、研究活動を通じて培われる集中力や粘り強さ等の強みに繋がっています。また、長期化せずに戦略的に就職活動を行うことは、主体性や実行力、計画力を育み、社会に出て仕事をする時においても重要な力となります。学生の焦る気持ちや不安な気持ちに寄り添いながら、目先の就職活動だけではなく、何がこれからの自分のキャリアにとって大事なのかを考えてもらい、自ら判断・決定できるように支援しています。

学生たちの成長可能性を信じて

自律支援担当・マネジメント准教授 山田 恵美子

自律支援の活動は、平成19年度（2007年度）文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP：Good Practice）」に、「3相の〈ことづくり〉で社会へ架橋する－問題解決型支援から成長促進型支援へ－」が採択されたことからスタートしました（全国からの応募272校から選定されたのは本学を含めて70校）。文部科学省からの支援は4年間の時限付きであり、同時に採択された多くの大学が2011年3月末にプログラムの活動を終了せざるをえないなか、大学独自の取り組みとしてほぼ同様の内容で活動を継続することができたのは非常に画期的なことでした。とは言え、その後、こうして学生支援センター未来人材育成部門のなかに「自律支援担当（学生活動支援窓口）」として確固たる位置を得られるようになるまでの道のりは平坦ではなく、その歴史を記すと長くなり過ぎるので割愛しますが、関係者の皆様の多大なご尽力がなければ成しえなかったことはここに絶対に記しておきたい、この場を借りてお礼を申し上げます。

学生の自主性や社会性を涵養する自律支援活動の重要性が認められるようになってきたことは、学生たちが放つ輝きそのものが説得力を持っていたからに他ならないでしょう。彼らが活動のなかで仲間たちと苦労を共にしたり努力を重ねたりする体験は、長く続く人生のなかで困難に直面したとき、そこに踏み止まり立ち向かって道を開いていく力の礎となるであろうことを、卒業生たちの活躍ぶりからも確信しています。

2022年度は、長く続いた新型コロナウイルスの感染拡大がようやく収束を迎える兆しが見えてきた年です。学生たちが互いに顔をあわせて活動できるようになり、生き生きとした笑顔を交わしあえるようになったことはとても喜ばしいことではありますが、その一方で、コロナ禍のために彼らが体験できなかった様々な体験を思うと胸が痛みます。学生たちの笑顔の影には喪失感を伴う痛みや悲しみ、そして変化への戸惑いもあるであろうことも心に留めつつ、今後も学生たちの活躍と成長を見守り支援してまいります。

1. 学生支援センター沿革

学生支援センターとは
沿革

学生支援センター組織図
設備

学生支援センターとは

学生支援センターは、東京工業大学における大学教育の一環として、日本人学生、留学生を問わず全ての本学学生に対し、支援業務を総合的にを行い、もって、学生の人間的な成長及び自律を図り、科学技術の高度な専門能力を基礎とする豊かな創造性を兼ね備えた社会のリーダーとなり得る人材の育成に資することを目的としています。

学生生活すべてを様々な角度から支援していくために2部門体制で運営しています。

学生相談部門は、学生生活に関する相談対応を行う学生相談室・電話相談デスク、障害学生のトータル支援を行うバリアフリー支援室の運営を行っております。未来人材育成部門は、就職イベントの開催や就職支援、学勢調査・ピアサポート等の学生が主体となる活動の支援、学修コンシェルジュによる入学直後の学生の修学支援、留学生の日本文化体験や留学生と日本人学生の交流イベントの実施などの国際交流に関する支援を行っています。

沿革

【学生相談部門】

1971年 学生相談室規則制定・施行

1971年 学生相談室設置

2009年 電話相談デスク設置

2017年 バリアフリー支援室設置

2021年 上記3組織を統合し学生相談部門として80年記念館を拠点として運営開始

【未来人材育成部門】

2006年 学生支援センター設置

2006年 キャリア支援部門設置

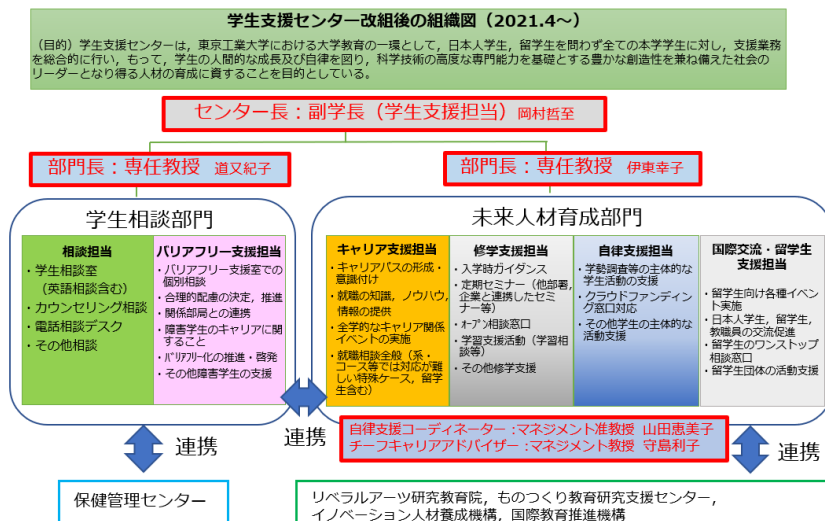
2008年 自律支援部門設置

2016年 修学支援部門設置

2016年 国際交流支援部門設置

2021年 上記4部門を統合し未来人材育成部門設置。Taki Plazaを拠点として運営を開始

学生支援センター組織図



※各部門における事務体制についても、より効率的な業務が行えるよう、見直しを検討中

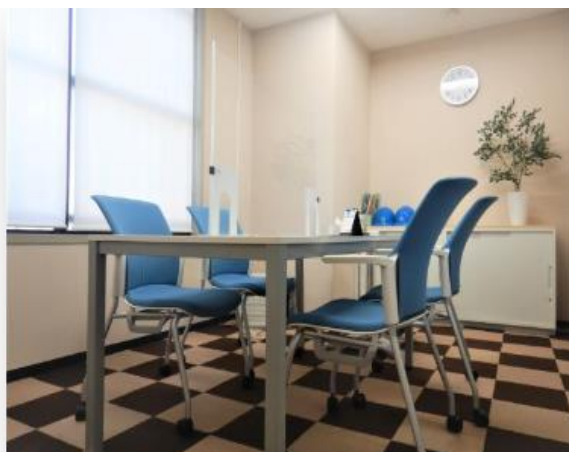
設備

I. 学生相談部門設備

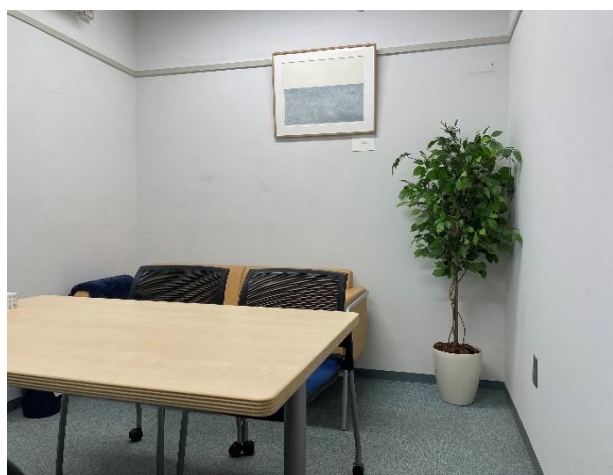
●大岡山（80年記念館 1階）



80年記念館



バリアフリー支援室面談室



大岡山学生相談室（面談室）



大岡山学生相談室（箱庭）

●すずかけ台（すずかけ台学生会館 H2棟 1階）



学生会館



すずかけ台学生相談室（面談室）

II. 未来人材育成部門設備

●大岡山 (Taki Plaza 地下1階)



学修相談ブース



キャリアアドバイザールーム

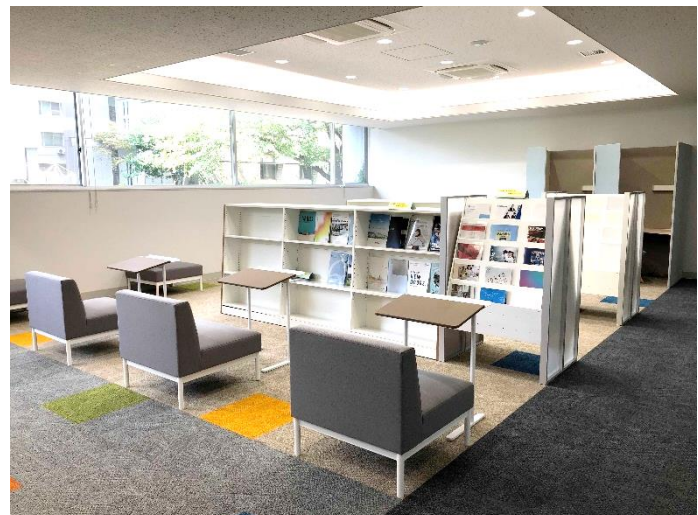
●すずかけ台 (すずかけ台図書館 S3 棟1階)



学修相談窓口



キャリアアドバイザールーム



就職資料コーナー

2. 学生支援センター 活動報告

学生相談部門 活動報告

未来人材育成部門 活動報告

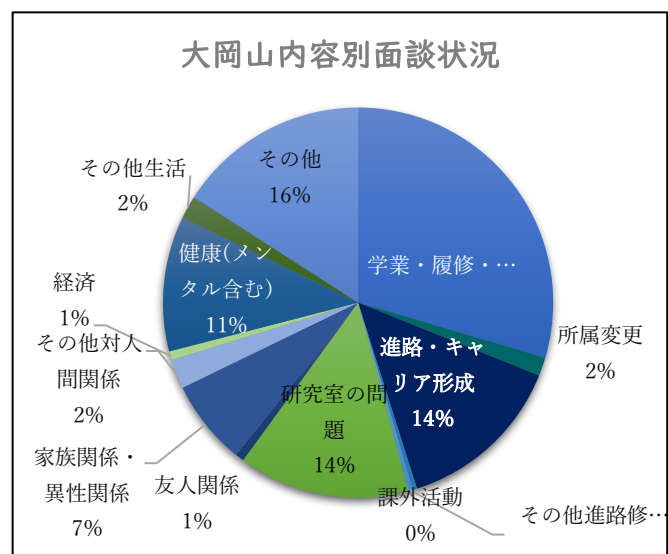
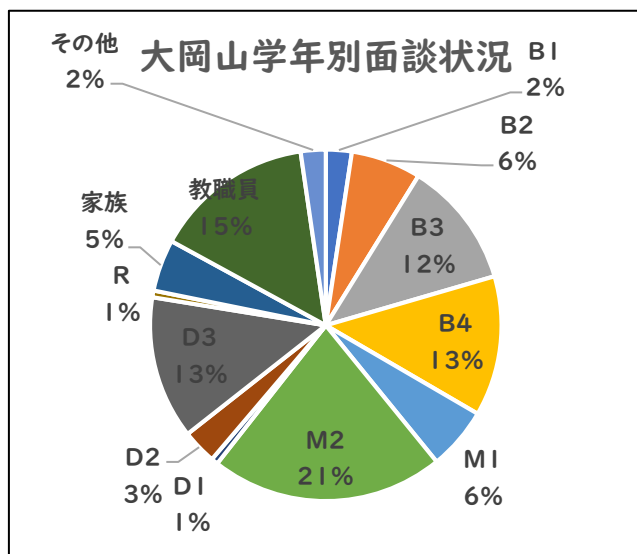
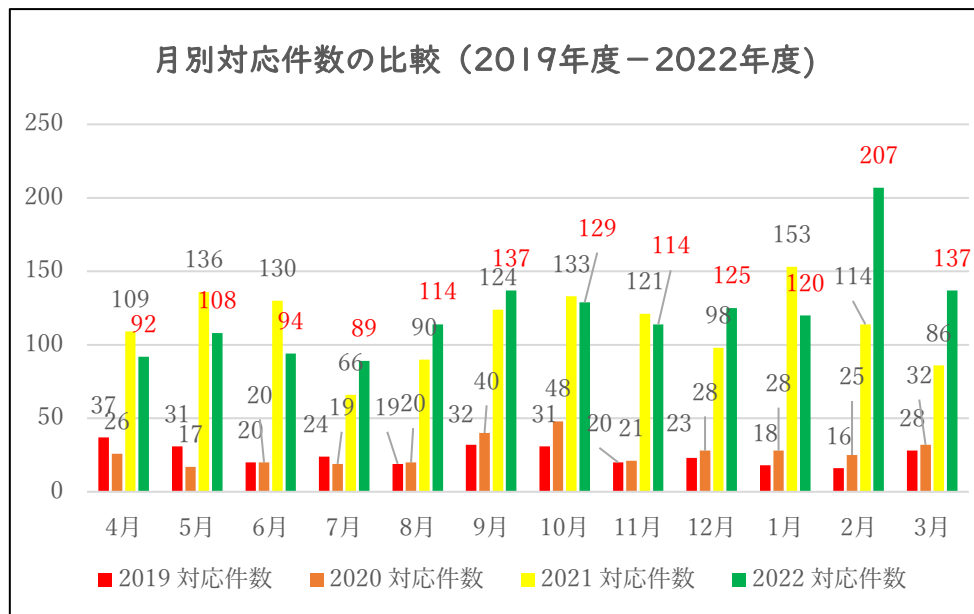
学生相談部門 活動報告

2022年度 学生支援センター学生相談部門 活動報告

I. 学生相談室（道又紀子・前田明美）

①大岡山

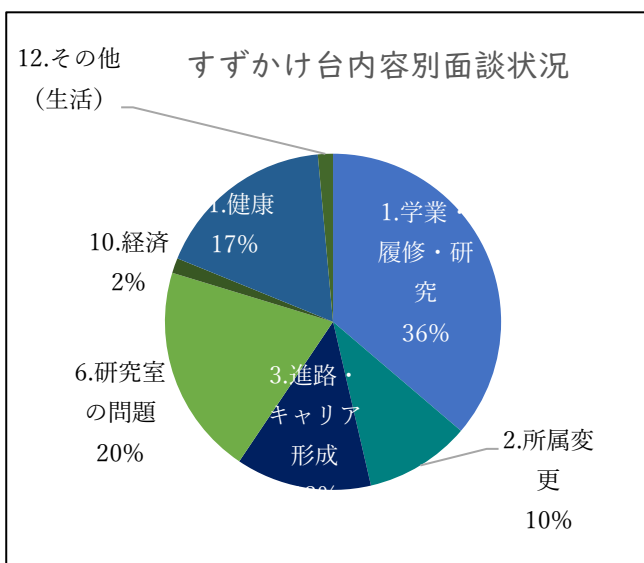
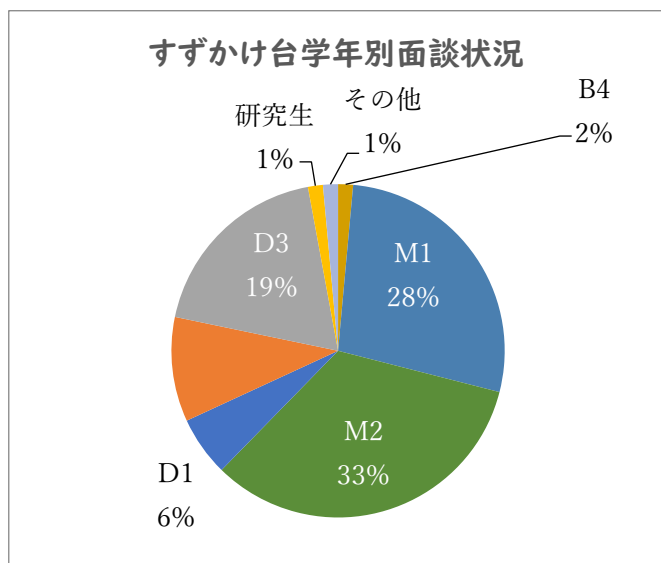
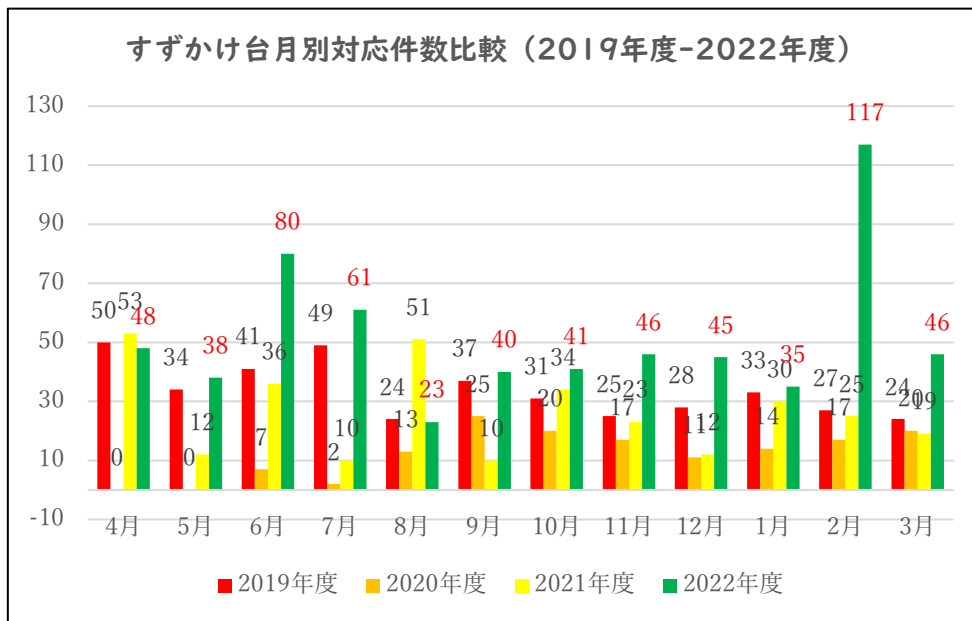
大岡山の相談件数は、改組後安定的に増加し、改組前の約5倍となっている。大学院生が大半を占めるすげかけ台校舎に比べると、比較的相談内容・学年とも多彩となっている。2022年度の相談内容の特徴としては、コロナ禍で人との関係を充分築けなかった学部生が研究室配属になって、急に不安になるといったケースがみられる。また、学生本人だけでなく、両親・担当教員から連絡がとれない、又は不登校になっているという相談が寄せられている。コロナ禍で分断されていた人間関係、またコロナ禍後、人と接することの困難を覚えている学生がいる。それらをどう紡いでいくかが課題となっている。さらに学部生にとっては、進路の問題も大きい。



②すずかけ台（柳田保子・前田明美）

すずかけ台での相談は、研究室に所属する学部4年生や大学院生からの相談がほとんどである。相談件数は、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により面談回数が極端に少なかったが、2021年度以降は、感染対策を施しての対面相談やZoomによる遠隔相談により、コロナ禍前の2019年度と同レベル以上となっている。

2022年度は修士2年生や博士2年生からの相談が多く、また一人当たりの相談対応件数が多いという特徴がある。さらに留学生対応の相談員が増えたことから、留学生からの相談件数も増えている。相談内容の内訳は大岡山と比較して、1. 学業・履修・研究、2. 所属変更、6. 研究室の問題、などの割合が多い。研究に対する不安、研究室内の人間関係や、研究室変更の希望などについての相談が多いことが伺える。



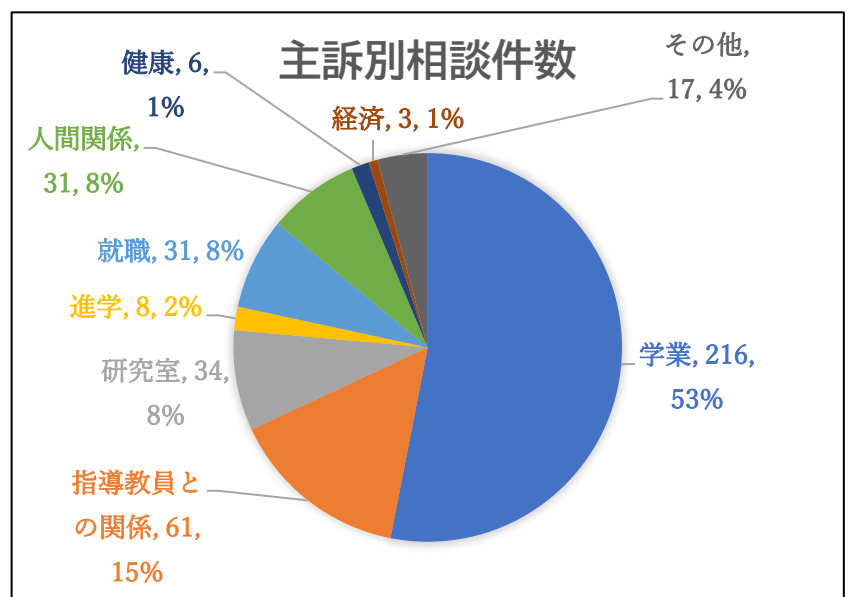
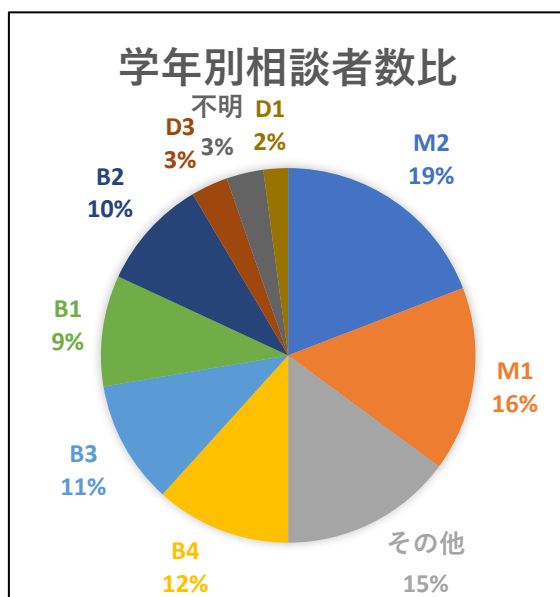
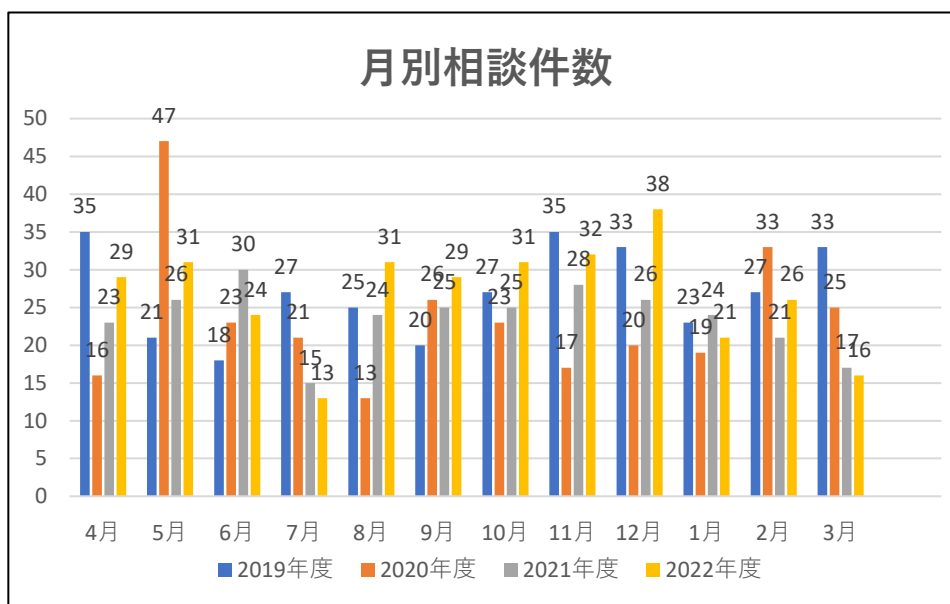
II. 電話相談デスク（上野修一）

2022年度は86人の学生さんやご家族などから延べ321件の相談がありました。また、2019年度、2020年度及び2021年度の延べ相談件数は、それぞれ324件、283件及び284件でした。2020年度と2021年度の相談件数が比較的少ないのは、新型コロナの影響があるのかも知れません。下に月別相談件数、学年別相談者数比及び主訴別相談件数のグラフを示しました。

月別相談件数では過去4年間のデータを示しています。2022年度では、5月、8月、10月及び12月の相談が多く、それぞれ30件以上でした。また、7月と3月の相談が少なく、それぞれ20件未満でした。

学部生の相談者数の割合は42%で、学部の各学年の相談者数は大体同じくらいです。また、大学院修士課程学生の相談者数の割合は35%で、修士課程の各学年の相談者数も大体同じくらいです。

相談内容は、学業が53%、研究室関連が23%、進路が10%などとなっています。学部3年生までは、系所属に関連する相談が多くなっていますが、学部4年生や大学院修士課程では、研究や指導教員との関係などの研究室に関連する相談が多くなっています。



Ⅲ. バリアフリー支援室（小林綾香・曾我有可）

本学の在籍障害学生数は、「JASOO：障害のある学生の修学支援に関する実態調査」の基準によると約 150 名です。発達障害(グレーゾーン含む)・精神障害・内部障害といった「見えにくい障害」に関する相談が 9 割を占めています。

本学バリアフリー支援室(以下、支援室と表記)における対応件数は年々増加しており、2017 年に開室し、統計をとり始めた 2018 年時と比較すると、およそ 3 倍となっています(2018 年度：2051 件→2022 年度：6027 件)。

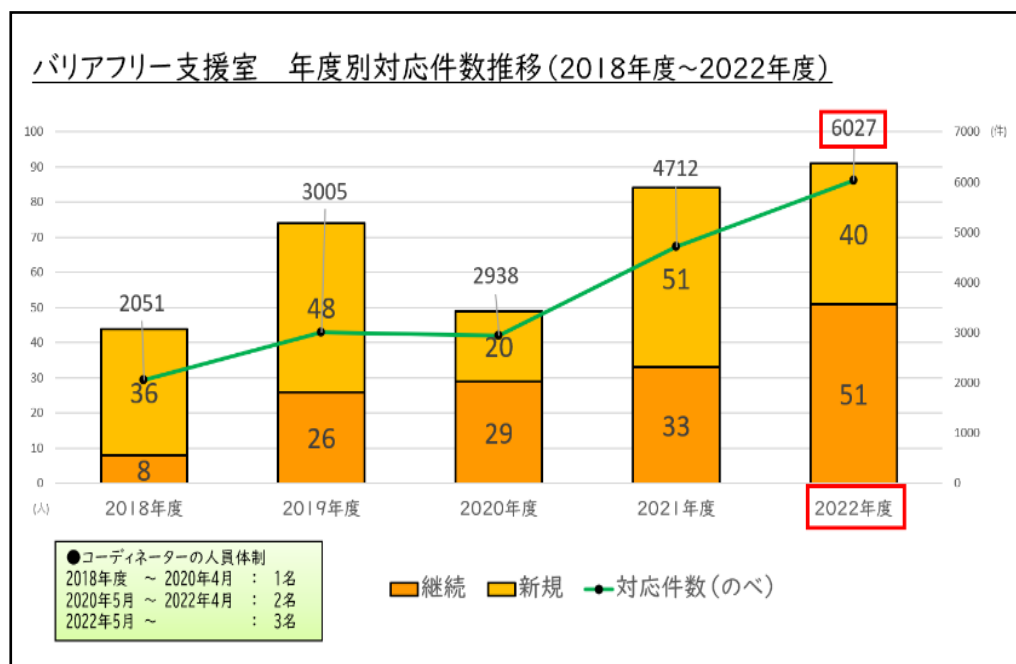
対応件数増加の要因としては、主に①継続利用学生数の増加、②配慮調整に係る教職員への問合せ/連携機会の増加、③コーディネータの人員体制の充実化 の 3 つが考えられます。

①支援室の継続利用学生数は 2022 年度末で 51 名となっています。本学の特徴として、学部生の約 9 割が大学院へ進学するため、支援室利用学生の中には、学部入学時から大学院修了までといった、長期的・継続的にサポートしている学生も数多くいます。

②配慮調整・配慮内容の検討のため、本人との面談や教職員連携を複数回重ねるケースも増えてきました。2020 年以降、新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴うオンライン授業の導入、ならびにアフタコロナ対応による対面授業の再開等、学生の修学環境は日々目まぐるしく変化しており、学生や教職員からの相談も多様化・複雑化しています。

③支援室開設時は 1 名体制であったコーディネータも、現在は 3 名体制となっており、コーディネータの人員体制が整うにつれ、利用者一人当たりに対して、よりきめ細やかな対応・連携が可能になりました。

アフタコロナにおける修学環境の変化/影響や、まだ相談に至っていない困り感を抱えた学生等、潜在的なニーズを考えると、今後も対応件数は増加していくことが予想されます。



【ALP（曾我有可）】

本学では、2020年より学生支援センター 学生相談部門 バリアフリー支援室を主体に「アクセシビリティリーダー育成プログラム（以下、ALP）」を実施しています。ALPは多様性社会におけるさまざまなアクセシビリティを推進できる人材の育成を目的としたプログラムです。オンデマンド形式の講座を修了した受講者は、オンラインで実施される資格認定試験を受けることができます。本学では「2級アクセシビリティリーダー」の資格取得が可能です。また、ALPは受講のみを選択することも可能です。本学でのALP実施は2022年度で3年目となり、これまでの受講者は120人を超えています。支援室では、ALP受講を通じて言語や文化、環境、ジェンダー、年齢、障がいの有無等に関わらず誰もが「利用しやすい」「参加しやすい」とは何か？を考えられる人材を育成し、多様な人が過ごしやすいキャンパス作りを目指しています。2022年度は学生13人、教職員17人の合計30人が資格を取得しました。毎年3月下旬に認定証授与式を開催しています。今年度はプレゼンターの岡村哲至学生支援センター長から認定者に学習意欲への賛辞と学内および社会寄与への期待の言葉が贈られたほか、アクセシビリティリーダー育成協議会が主催する全国規模の研修会「アクセシビリティキャンプ」に参加した田村俊樹さん（理学院 地球惑星科学系 修士課程2年）からの報告も行われました。授与式終了後には車いす体験のワークショップを行い、5人の学生が参加しました。

学生たちは車いすの操作と介助について説明を受けたあと、2チームに分かれて大岡山キャンパス構内の坂道へ移動し、車いすの自走や介助を体験しました。



【アクセシビリティマップ（三沢慶子）】

D&I の観点においてキャンパス内のアクセシビリティ情報を集約、現地確認および撮影にて状況を把握し、「WEB 版東工大アクセシビリティマップ」を作成、2022 年 11 月に大岡山キャンパス、2023 年 3 月にすずかけ台キャンパスについて公開しました。作成にあたり主に以下を考慮しています。

①東工大生にとっての利便性

学生の視点を含めるため、学内ワークスタディ事業においてアルバイト学生を採用し、現地確認&撮影スタッフとして参加いただきました。また「2 級アクセシビリティリーダー」資格取得学生にアンケート調査を実施し、案内すべき情報を精査しました。

②東工大のアクセシビリティに適した情報提供

緑豊かな丘陵の立地、新旧多様な建物群により生じる、アクセス途中での迷いや、多様な設備の統一マーク表示における困惑等に対応するため、画像を多用した、スマホで視認しやすい WEB 版を作成。歩きながら利用でき、設備の詳細が画像で確認できるマップとなりました。

他大学ではおよそ印刷物や PDF データでのマップにより情報提供していることを鑑みるに、WEB 版は特色のある提供方法と考えます。

【主な案内事項】

各建物について：駅からのアクセス、多目的トイレの場所・設備詳細、エントランス状況、EV、講義室番号など

キャンパスについて：坂、階段、各門の状況、障がい者専用駐車場など

【URL】

<https://www.ssc.titech.ac.jp>



IV. 学外での活動報告

- 1) 日本学生支援機構主催「心の問題と成長支援ワークショップ」ハラスメント問題
講師 道又紀子 2022.8.22-23.
- 2) コロナ禍における個別相談の対応方針と機関内連働—学生相談とメンタルヘルスの連携—
齋藤憲司・安宅勝弘・丸谷俊之・高田純・道又紀子・片岡彩・宣聖美・岡安朋子・河西正枝 大学のメンタルヘルス,5,61-64. 2023.3.31.
- 3) 学生相談におけるオンライン相談の対応方針と漸進的活用
高田純・齋藤憲司・道又紀子・片岡彩・宣聖美・岡安朋子・河西正枝 大学のメンタルヘルス,5,101-106. 2023.3.31

未来人材育成部門 活動報告

2022年度 学生支援センター未来人材育成部門 活動報告 (一部数値は3月15日現在)

I. 個人相談

	相談名	担当	件数	備考
教職員による相談	キャリア相談	キャリア	2876	～3月末
	学修コンシェルジュ相談	修学・国際	370	～3/13
	留学生相談窓口相談	修学・国際	54	
学生による相談	ピアサポーター相談	自律	232 (251人)	「春の新入生相談会」3月末～4月、相談件数187件、相談者数205名。「ピアサポーターによるオープンキャンパス『学生生活なんでも相談会』、相談件数23件、相談人数23人。「秋の大学生活何でも相談会」10月、相談件数7件、相談者数7名。「系所属相談会」1月～3月、相談件数15件、相談者数16人。
	ピアサポーター「ピアちゃんのリプライ箱」	自律	216	匿名投書型相談活動
	理工系教養科目チュータリング	修学・国際	15	
	留学生による留学生相談	修学・国際	0	
				3763

【キャリア支援担当】

2020年からのコロナ禍で相談は全て ZOOM で行っていたが、コロナ対応への変化を受け、秋以降、対面相談も受け付け始めた。昨年度までは4名のキャリアアドバイザーが週4日（1日当たり大岡山、すずかけ台のキャンパス1名ずつ担当で計2名）の相談を行っていたが、今年度からは週5日で相談対応を行った。また、キャリアアドバイザーは全員、月に2日は相談を行わない企画日を設けていたが、3月の繁忙期に近づくにつれて、予約が取れないとの声が多く聞かれるようになったため、企画日のアドバイザーも、オンライン限定枠を開設して相談したり、当日予約枠の開始時間を1時間前倒しするなどの工夫も行い対応した。

- ・事前予約による相談件数（4月～3月）：1846件（1人45分相談）参考：令和3年度：1715件
- ・当日予約枠（1人20分相談、通常17時以降1日1キャンパス2枠、繁忙期は変則的対応）：相談件数（4月～3月）：940件 参考：令和3年度：733件
- ・オンライン限定枠（3月13日～3月31日）90件（今年度初めて実施）
- ・相談合計2876件（参考：令和3年度 2448件）

就職活動の動きが一段と早期化してきており、自己分析、エントリーシート、面接に関する相談が年間を通して多い。また、学校推薦の利用方法や、後付け推薦等、企業のいわゆるオワハラ（企業が学生に対して就職活動を終わらせることを強要すること）に関する質問も増えている。インターンシップの募集は通年化しており、インターンシップからの早期選考も常態化し、最終学年を待たずに内定を得ている学生も多い。例年、夏休みから秋口は相談予約が比較的取りやすい時期ではあるが、相談件数が大きく減る時期はなかった。

【自律支援担当】

ピアサポート活動は、学生による学生のための相談活動である。所定の研修を受けた先輩学生たちが、自身の経験に基づき、大学生活についての様々な相談に対応している。

2022年度は、大学のコロナ対応方針の変化により、主として対面相談をおこなうことが可能になったが、相談希望学生のニーズにあわせてオンライン相談も継続しておこなった。なお、対面相談は Taki Plaza 地下1階の相談ブースにて実施し、オンライン相談は zoom を用いておこなった。

➤ 春の新生相談会（3月末～4月）

単位数、キャップ制、授業の組み方など履修関係に関する相談が最も多く、次いで学内システムやソフトウェアなどのIT関係の相談が多く寄せられた。

➤ 秋の大学生活何でも相談会（10月）

系所属や研究室所属、就職や進学など将来に関する学修/進路関係の相談が最も多かった。3,4Qに開講される科目の履修や学内施設に関する相談も寄せられた。

➤ 系所属相談会（1月～3月）

系所属後の履修、研究室の所属方法と研究内容についての相談が主であったが、将来の就職先や生活面についての悩みも絡んでの相談が多かった。

➤ 「ピアちゃんのリプライ箱」（通年）

匿名投書型相談活動を Taki Plaza 地下1階で実施している。投函された匿名の「つぶやき」に対し、ピアサポーターが「お返事」を作成し、専用のボードに掲示している。「お返事」作成のプロセスは、まず複数名のピアサポーターで「つぶやき」の内容を検討し、投稿者の気持ちに寄り添った「お返事」となるよう、じっくり話し合っている。話し合いにより作成した原稿は、担当教員による確認指導を経て完成稿となっている。2022年度は対面授業が再開された影響からか、投函数が急増した（2021年度55件→2022年度216件）。投函される「つぶやき」の内容は、講義内容や研究など学業面への不安、人間関係の悩み等から、日常の中での些細な気づきやイラストを使ったユーモアのあるものまで多種多様である。



ピアサポーター相談



ピアちゃんのリプライ箱

【修学・国際交流支援担当】

■ 学修コンシェルジュ相談窓口

学修コンシェルジュ相談窓口は、学修支援専門職である学修コンシェルジュが、全学の学生からの学修相談を引き受けている。Taki Plaza 地下1階とすずかけ台図書館1階に相談窓口を置く。2020年以降は、メール、Zoom、対面のいずれかの方法で、予約なしで随時相談を受け付ける（大岡山は週5日、すずかけ台は週3日）。2022年度は、通年で370件の相談（3月13日べ）があった。件数は学生の来談やメールを1件とカウントしているが、学内各所（教務課、外国語事務室、各学院コースの事務室、IIDPやILAの事務、系やコースの主任、授業担当教員など）に確認しながら相談学生と一緒に考える必要がある相談事案が多く、1件あたりの相談負荷は大きい。春、秋の履修申告期の相談が多く、学士1年、修士1年（入学直後）の相談が多い。学修コンシェルジュ相談窓口には、過年度学生、早期卒業や留学のために通常より早めに履修を進めたい学生、転系や編入で通常とは異なる履修になる学生、教育システムが出身国と異なり戸惑いがある留学生、業務と学業との両立に苦勞する社会人学生など、定型的な回答が難しい学修（履修）相談が多く来る傾向がある。学修相談について、ピアサポーター相談はじめ、学内各所の相談部署と分業・協業が進んできており、それぞれの相談部署の本来のミッションや得意技に適合する相談がそれぞれの部署で担当出来るようになってきている影響ではないかと思われる。



学修相談

■ 留学生生活相談窓口

学生からの修学以外（生活関連）の問い合わせや相談を受け、年間60件の対応を行った。

8月・10月・2月・3月に特に問い合わせ/相談件数が多かった。

主な問い合わせ/相談内容は以下の通り。

- ・ まだ来日できていないが、寮の申込方法を知りたい。
- ・ まだ来日できていないが、大学で家を探すサポートを何かしてくれないか。
- ・ 区役所とインターネットのプロバイダから届いた書類の記入を手伝ってほしい。
- ・ 卒業・帰国に際し、クレジットカードとインターネット、携帯電話の解約を手伝ってほしい。
- ・ 国民健康保険の振込書の金額が、去年より増額している件で、問い合わせ
- ・ 奨学金を受けておらず、学費免除の申請も2回落ちた。何か他に経済的支援を申請できるものはあるか。
- ・ すずかけ台所属であることとオンライン授業のため、友人ができづらい。大岡山ではもっと対面で交流できる活動があるか。
- ・ 日本語があまり得意でない留学生向けのインターンシップや求職の情報はありますか。
- ・ 国際交流メールニュースの登録方法を知りたい。
- ・ 学生証を紛失してしまい、再発行手続きについて知りたい。
- ・ ゆうちょ銀行の口座を開設したいが、どのようにしたら良いか。
- ・ 9月卒業予定を延期したのだが、10月になり東工大ポータルが使えなくなってしまった。どうすればいいか？

II. ガイダンス

ガイダンス名	担当	開催日	開催回数	主な対象学年	参加学生数	共催	備考
国家公務員2次試験・官庁訪問対策講座	キャリア	5/12		B3,M1,M2,D1,D2の公務員受験者	65	IIDP	
インターンシップガイダンス	キャリア	5/18		B3,M1,D2	373	IIDP	
就職活動再点検講座	キャリア	6/1,16		B4,M2,D3 (最終学年)	114		①62人 ②52人
進路ガイダンス	キャリア	6/22		B3,M1,D2	131		
夏休みキャリアガイダンス	キャリア	9/21,22		全学生	102		今年度初開催 就職内定者報告会を含む
就職ガイダンス・内定者報告会	キャリア	10/19		B3,M1,D2	227		昨年までは、就職ガイダンスと内定者報告会を別開催
留学生就職ガイダンス	キャリア	11/2		全留学生	139	JAPI	
外資系企業と留学生の交流会 (JETRO主催)	キャリア	11/25		全学生	89	IIDP・JETRO	他大学を含め530人の学生が参加
Dr's K-meet (博士後期課程学生のための蔵前就職情報交換の集い)	キャリア	11/30,12/1		D全員	240	蔵前工業会	登録数 (他大学を含め328人が登録)
就職対策講座	キャリア	12/14,2/9		B3,M1,D2	208		昨年は1月末～を早めて開催 ①134人 ②74人
「仕事とキャリア」セミナー (11社1官庁参加)	キャリア	12/21		全学生	91	蔵前工業会	昨年までは1月中旬開催
独立行政法人、国立研究開発法人等業務説明会	キャリア	2/16		全学生	81	IIDP	20法人が参加
修士進学者のためのキャリアガイダンス	キャリア	2/27		B3,B4	171	修学支援部門	今年度初開催
K-meet (東工大生のための蔵前就職情報交換の集い)	キャリア	3/1,2,3		B3,M1,D2	706	蔵前工業会	登録数 (昨年登録数は1110人)
学士のためのキャリアガイダンス	キャリア	3/23		B1,B2	58	修学支援部門	今年度初開催
キャリアに関するなんでも相談会	キャリア	毎月月末水曜定例		全学生	821		今年度初開催
学修コンシェルジュによる学士課程1年ガイダンス	修学・国際	4/6, 7, 9,10	14回	学士課程新入生 (B1)	1000		
学修コンシェルジュによる編入生ガイダンス	修学・国際	3/30	1回	高等専門学校からの編入生	33	編入生会	
学修コンシェルジュによる大学院生ガイダンス (春入学)	修学・国際	3/30, 4/2	4回	大学院課程新入生 (M1, D1)	980	キャリア相談窓口	日本語2回、英語2回、Zoom上の参加者数のため正確な人数は不明。
学修コンシェルジュによる大学院生ガイダンス (秋入学)	修学・国際	9/21, 24	4回	大学院課程新入生 (M1, D1)	207	キャリア相談窓口	日本語2回、英語2回、Zoom上の参加者数のため正確な人数は不明。
					5836		

【キャリア支援担当】

キャリアに関するガイダンスは、キャリアアドバイザールームが開設された当初から、アドバイザーが全て企画、内容の作りこみ、実施をしている。東工大の就職データや卒業・修了時に実施している「就職状況調査」結果を用いながら、完全に東工大オリジナルなものである。理工系学生の就職がほとんどであり、各学位の中で修士の就職者の人数が1番多いこと等、学部・文系の学生が多い就職活動の仕方とは違った独特なものがある。東工大生の強みを理解し、いかにそれを就職活動に結び付け、学生自身が望むキャリアの一步を踏み出すかを意識してもらいながら、ガイダンスでは多くの学生に広くキャリア形成に必要な知識を伝えている。

IIDP (大学院生へ向けたキャリア科目を開講し、キャリア教育を実施・支援する組織)、蔵前工業会 (東工大OB・OG会)、修学支援部門等、関連部署とも一部連携しながら、学生のニーズや就活状況の変化に応じて実施している。

令和4年度は全部で18のガイダンス・イベントを実施。内、初開催のガイダンスは4つ。(実施ガイダンス詳細は上記表を参照)

ガイダンスはコロナ禍からZOOMウェビナーで実施。録画をして後で配信もしている。そのこともあってか、実施当日の参加人数の減少が課題である。就職活動の早期化、多様化に合わせた実施時期や内容を検討することが必要と考えている。

【修学・国際交流支援担当】

2016年の教育改革開始時より、学士課程、大学院課程の新入生に対して、学修コンシェルジュが入学時のガイダンスを実施している。2018年より、編入生に対しても入学時ガイダンスを開始した。

▶ 学士課程新入生ガイダンス

学士課程新入生ガイダンスは、4月6～7日、9～10日の4日間にわたり、大岡山キャンパス Taki Plaza (タキプラザ) 地下2階のイベントスペースで、90分間のガイダンスを計14回開催し、約1,000名の学士課程新入生が参加した。6ユニットごとに1クラスが編成され、講師は現役学生の学修コンシェルジュ Jr. (ジュニア) と蔵前工業会の卒業生が務めた。ガイダンスの冒頭には、益学長が参加し、新入生との Q/A を行った。

ガイダンスは、「大学学修へのスムーズな適応」「長期的な視点に立った計画作成」「東工大生としての連帯感とアイデンティティの確立」の3つを目的とし、講師が東工大の歴史・実績、東工大生活の実体験、大学生活の過ごし方、学修面のノウハウ、および大学の学びと社会とのつながりなどを先輩の立場で伝えた。また、現役学生から卒業生へのインタビューでは、進路の決め方、学生時代の課外活動などを、卒業生が自らの体験を披露するとともに、新入生が将来像を意識しながら学修に取り組めるように助言も行った。プログラムの最後には、同じユニットに属する新入生同士が交流するユニット交流会が行われた。

▶ 大学院課程新入生ガイダンス

大学院課程新入生ガイダンスは、3月30日と4月2日に、日本語と英語の両言語で90分間のガイダンスをそれぞれ1日に1回ずつ、2日間で計4回、オンラインで開催した。日本語でのガイダンスは約850名、英語でのガイダンスは約120名の大学院課程新入生が参加し、日本を含む14の国と地域からの参加があった。後学期は、9月21日と24日にオンラインにて、日本語と英語で90分間のガイダンスをそれぞれ1日に1回、2日間で計4回配信した。日本語では約90人、英語では約117人、日本を含む21の国と地域からの参加があった。

ガイダンスでは、学修コンシェルジュが大学院生全員に共通のカリキュラムや履修の仕組み、および大学院課程の各種プログラム・教育課程、就職活動、留学、経済的支援、東工大の各種支援窓口などに関する情報を網羅的に紹介した。

春のガイダンスでは、学修コンシェルジュ Jr.や現役大学生による、学生交流活動の紹介やキャンパス周辺の生活情報の提供、研究や就職活動の体験談は、大学院新入生から大変好評だった。

日本で就職を検討している学生に対しては、ガイダンス終了後に、学生支援センター未来人材育成部門キャリア相談窓口による留学生向け『キャリア支援ガイダンス』が行われた。大学院生のキャリアパスや、日本での就職活動に関する基本的な情報が、日本語と英語でそれぞれ約15分間紹介された。

▶ 編入生ガイダンス

高等専門学校を卒業して東工大に編入学した学生を対象に、4月2日に1時間のガイダンスをオンラインで開催し、33名の編入生が参加した。編入生は高等専門学校で履修した科目と東工大での履修との互換性や、学士特定課題研究の申請といった東工大の学修の仕組みについて、編入学後ただちに把握する必要があり、大学という環境の変化に適応し新生活の計画を早いうちに立てることも望まれる。こうした編入生特有の事情に配慮し、ガイダンスでは、東工大の履修の仕組み、大学生活のデザインに加え、学士課程3年時以降の履修に関する基本的なポイントや卒業に向けての計画の立て方、およびサポートが必要な際利用できる東工大の各種支援窓口などを取り上げて紹介した。

編入生ガイダンスでも、益学長への質問コーナーをオンラインで行い、「先生は高専時代どのような生活を送られていましたか」「益先生が東工大に編入しようと思ったきっかけは何ですか」「東工大を選択して良かったと思えた出来事がありますか」など、同じ編入学の経験を持つ学長に多くの質問が寄せられ、激励や助言とともに親身に回答された。

ガイダンスの終了後には、東工大に在学する編入生の団体「編入生会」による説明もオンラインで行われた。



新入生ガイダンス

Ⅲ. イベント・セミナー

イベント、セミナー名	担当	開催日	開催回数	主な対象学年	参加人数	共催	備考
English Café online	修学・国際	学期中毎週月曜日	22	全学生・教職員			
IoT導入教育セミナー（マスマークス）	修学・国際	6/15,22		全学生（主に学士）	36		42人、13人
IoT導入教育セミナー（アクロクエストテクノロジー）	修学・国際	10/5,12		全学生（主に学士）	46		26人、20人
IoT導入教育セミナー（ソリトンシステムズ）	修学・国際	12/14,21		全学生（主に学士）	17		16人、13人
IoT導入教育セミナー（コモドソリューションズ）	修学・国際	1/11,18		全学生（主に学士）	24		13人、11人
アートセミナー（春）	修学・国際	5/18		全学生	15		
アートセミナー（秋）	修学・国際	11/16		全学生	26		
留学生歓迎レセプション	修学・国際	9/27		2020年4月～2022年9月入学の留学生	56		
七夕	修学・国際	6/13～7/22		全学生	351		351人（短冊枚数）
年末年始企画	修学・国際	12/7～1/31		全学生			
イブニングセミナー「デジタル天体観測会」	修学・国際	8/23,12/19		全学生	24		12人×2回
多言語チャット（英語、中国語、フランス語、韓国語）	修学・国際	学期中の週4日昼休み		全学生	46		
「みらい創造チャレンジ」最終報告会	自律	5/25	1		36	学生支援課支援 企画グループ、 蔵前工業会	
クラウドファンディングに関する説明会	自律	8/18,12/7	2	全学生、課外活動担当教職員	45		30人、15人
第16回学生応援フォーラム	自律	2/27	1	全学生教職員、他大学学生教職員	65		
ぴあのわ2022in東京（全国ピアサポーター合同研修会）	自律	3/10,11	1	全国のピアサポーター学生と関係教職員	117	東京大学、東京 医科歯科大学	17大学、学生75人、教職員42人
					904		

【自律支援担当】

➤ 第16回学生応援フォーラム

3年ぶりの対面開催となり、東京医科歯科大学からもご参加いただいた。

他大学の優れた取り組みから学びを得るため、毎回ゲストスピーカーをお招きしている。今回は、大正大学の齋藤知明専任講師（心理社会学部 人間科学科）と学生3名から「地域と共に社会課題を解決する教育 — 大正大学のばあい —」として、大正大学で実践している地域連携活動についてご講演いただいた。

未来人材育成部門が支援する学生活動「学勢調査」「東工大VG（学生ボランティアグループ）」「ピアサポーター」「留学促進団体FLAP」「学修コンシェルジュ Jr.」の5活動が口頭発表とポスター発表をおこない、「図書館サポーター」「教育革新センター・オンライン教育部門学生アシスタント」「Taki Plaza Gardener」「Attic Lab」「iGEM Tokyo Tech」「みらい創造チャレンジ『ArTech コンテスト—芸術的なロボット技術コンテスト—』」「みらい創造チャレンジ『おのお知るまちプロジェクト』」「みらい創造チャレンジ『Kitmee』」の8活動は、ポスター発表のみおこなった。



学生応援フォーラム

➤ ぴあのわ 2022in 東京

ぴあのわ（全国大学合同ピアサポーター研修会）が3年ぶりに対面開催可能となった。「ぴあのわ 2022in 東京『ピアの皆さん、お久しぶりです』」を、本学と東京大学・東京医科歯科大学の3大学合同で主催校として開催した。全国から集まった参加者は、学生75名、教職員42名である。

➤ みらい創造チャレンジ最終報告会

2021年夏、「みらい創造チャレンジ」第1期募集を開始。38件の応募から5プロジェクトを採択し支援金150万円を分配した。第1期採択プロジェクトは「Tokyo Tech 人間スタンプラリー」「カプセル家具」「ちよこっと彫刻～あなたのそばにも切削を」「外国人学生と日本人学生が交流するためのアプリケーションの実装及び運用体制の構築」「東工大生が大岡山のまちをもっと知って、まちと大学を繋げる取材発信の取組み」の5件である。最終報告会にはスポンサーである滝久雄氏にもご出席いただいた。



みらい創造チャレンジ

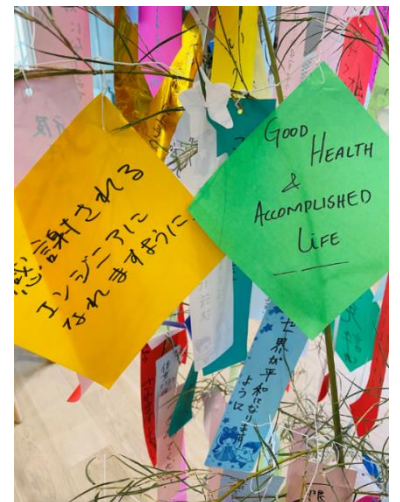
➤ クラウドファンディングに関する説明会

本学が提携する READYFOR 株式会社、本学で初めてクラウドファンディングプロジェクトを成功させたサイクリング部ボール班の代表学生をお招きして Zoom にて開催した。

【修学・国際交流支援担当】

➤ 七夕イベント、年末年始企画

2020年から、Taki Plaza 地下1階で、七夕イベントと年末年始企画の2つの季節行事を行っている。2022年の七夕イベントでは、6月13日～7月22日の間、地下1階に4本の笹を置き、学生が自由に短冊を書いて笹に飾った。合計351枚の短冊が飾られ、「単位」と書いた短冊が笹ではなく床に置かれるような「ユーモア」のある飾り方が今年も見られた。12月7日～1月31日には、年末年始企画として、クリスマスツリーをグローバルラウンジに設置し、学生が自由にオーナメントに彩色してツリーを飾った。グローバルラウンジの壁面には、学修コンシェルジュ Jr.国際班の留学生の学生達が、母国のお正月料理のレシピや写真を展示した。



七夕イベント

➤ イブニングセミナー「デジタル天体観測会」

学修コンシェルジュ Jr.広報班では、年に数回、学生企画のセミナーを実施している。2022年度は、8月23日（第7回イブニングセミナー、12名参加）と12月19日（第9回イブニングセミナー、12名参加）の2度にわたり、天文研究部の協力を得て「デジタル天体観測会」を開催した。電視観望と呼ばれる、天体カメラを望遠鏡に取り付け、パソコンでリアルタイムに画像処理することで、肉眼では見えにくい天体の姿を見る手法で、都会から肉眼では見ることが難しい星雲や星団を観望した。



デジタル天体観測会

▶ IoT 導入教育セミナーの開催

ものづくり教育研究センターと共催し、合わせて4企業の協賛を得てIoT導入教育セミナーを開催した。協賛企業・開催日・セミナーの内容（開催方法）・参加人数は以下の通り。

- ① MathWorks・6/15 MATLAB 入門（online 講義）/6/22 実践（onsite）・42名/13名
- ② アクロクエスト・10/5 機械学習初級/10/12 機械学習中級（両日 online）・26名/20名
- ③ ソリトンシステムズ・12/14&12/21 IoTセキュリティ体験（両日 onsite）・16名/13名
- ④ コモドソリューションズ・1/11&1/18・初心者向け Python（両日 onsite）・13名/11名

▶ アートセミナーの開催

5月にすずかけ台キャンパスで、11月に大岡山キャンパスで英語と日本語によるアートセミナーを開催した。セミナーの講師は元東工大教員のツーゼ・マイヤー氏（ドイツ出身）。留学生を中心に、すずかけ台では15名、大岡山では26名が参加し、多様なバックグラウンドを持つ学生たちが集まり交流する場となった。

5月のセミナーでは、色彩が持つ力をテーマとして切り絵の制作が行われ、11月のセミナーでは、鉛筆やグラファイト（石墨）を使用してデッサンを学んだ。

▶ 留学生歓迎レセプション

2021年から実施している「未来人材応援プロジェクト」セッション1として、一般社団法人蔵前工業会、学生支援課、学生支援センターが共催し、9月27日に留学生歓迎レセプションを開催した。参加者は、2022年9月入学者をはじめ、コロナ禍で来日が遅れた2020年4月以降の入学者を含む計56名、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、インドなど計15か国にのぼった。迎える側として、学生団体の茶道部、剣道部、空手部、Taki Plaza Gardener（タキプラザ・ガーデナー：TPG）、東京工業大学留学生会（TISA）、国際交流学生会（SAGE）、留学促進団体（FLAP）のメンバー計19名の在学生在が新入留学生を歓迎した。



IoT 導入教育セミナー



アートセミナー



留学生歓迎レセプション

IV. 学生プロジェクト

学生プロジェクト名	担当	活動頻度	活動実績
学修コンシェルジュJr.国際班 多言語チャットルーム企画	修学・国際	2Q~4Q (のべ2Q/21回、3Q/12回、4Q/28回、合計61回)	英語・中国語・フランス語・韓国語で実施した。参加者数のべ2Q/40名、3Q/31名、4Q/46名、合計117名)
学修コンシェルジュJr.ガイダンス班	修学・国際	4回/月	学士課程新入生ガイダンスの企画と準備
学修コンシェルジュJr.広報班 LINE公式アカウント発信	修学・国際	ミーティングおよび作業2回/週	2回/月配信
学修コンシェルジュJr.広報班 教員インタビュー企画	修学・国際	ミーティングおよび作業2回/週	2本リリース
学修コンシェルジュJr.広報班 Tokyo Tech Study Tips企画	修学・国際	ミーティングおよび作業2回/週	2本リリース
学勢調査	自律	ミーティング随時開催	学勢調査2022を6月22日~7月22日に全学生対象に教務Webシステム上にて実施、回答者数は2,671人。集計と解析、キャンパスミーティングを経て、大学へ提出する提言書を作成。3月30日に提言書を学長へ奉呈。学勢調査2022調査実施後、東京医科歯科大学との統合及び入試女子枠設置の発表があったことから、追加調査を12月27日~1月27日に実施。追加調査結果の速報を3月末に提出した提言書に掲載。追加調査の報告書はR5年6月末に提出予定。
東工大VG (学生ボランティアグループ)	自律	ミーティング随時開催	被災地復興支援物産展(東北・熊本)と募金活動(ウクライナ支援・難民支援)をホームカミングデー(5/21)と工大祭(10/29,30)にて実施。学内防災訓練の実施補助(11/9)。横浜市みどり区主催「みどりサンプラザプロジェクト」参加(12/10)。学内清掃実施(3/16)。東日本大震災被災地スタディツアーとして陸前高田と気仙沼を訪問(3/19,20)。
リプロ	自律	ミーティング随時開催	R4年8月活動終了
ピアサポーター	自律	ミーティング随時開催	対面およびzoomでの相談活動(新入生相談会、オープンキャンパス、秋の大学生活何でも相談会、系所属相談会、随時相談対応)、匿名投書型相談活動(「ピアちゃんのリプライ箱」)を実施。相談対応力向上のための研修会開催(7/21、10/25、12/13)。全国大学保健管理協会第60回関東東甲信越地方部会での発表(9/1)。北星学園大学訪問受け入れ(9/15)、広島大学と名古屋大学を訪問(活動拠点の見学、ピアサポーター及び関係教職員と情報交換)(2/16-17)。新規ピアサポーター採用研修会開催(2/24、3/1)。ぴあのわ2022in東京(全国ピアサポーター合同研修会)を本学を会場として共同開催(東京大学、東京医科歯科大学との共催)(3/11-12)。新入生相談会開催に向けての研修会開催(教務課3/17、ウェルネス科目3/24)。
ACTION (東工大語学パートナー制度)	自律	ミーティング随時開催	LEP slack communityの創設(2022年4月~)、LEP caféを毎月開催、若葉祭ですごろくゲームを実施、国際系サークル合同説明会 ringに参加
留学促進団体FLAP	自律	ミーティング随時開催	「留学ってどんな感じ?@若葉祭」「留学トーク!!!」「みんなで!ふらっとFLAP」「短期留学からはじめる一歩」「トビタテ対策会」「海外大学院留学説明会」「東工大OB・OG留学交流会」等のイベント実施。留学生交流課・グローバル理工人育成部門が主催する説明会への登壇。随時、希望者に合わせて「ふらっとFLAP」を実施。
学生クラウドファンディング	自律		相談対応10件。サイクリング部が5/6プロジェクト成立。管弦楽団が2/20プロジェクト成立。

【自律支援担当】

➤ 学勢調査

教育改善や施設建設・整備、学内サービス向上といった大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査を2年に1度教務Webシステム上にて実施している。2022年度は調査実施年度であり「学勢調査2022」を実施した。

「学勢調査2022」実施後に「東京医科歯科大学との統合」「学士課程入試における女子枠の導入」という大きな決定があり、学生生活への影響がとても大きいと考えられることから、「学勢調査2022追加調査」を緊急実施した。

回答者数は、「学勢調査2022」2671名。「学勢調査2022追加調査」1623名である。

学生スタッフが調査データの集計と分析をおこない、キャンパスミーティングでの意見交換を経て、提言書を作成し、学長と理事/副学長に提出して意見交換をおこなった。



学勢調査2022_提言書奉呈式

➤ 東工大 VG (学生ボランティアグループ)

対面活動が再開できるようになり、活動の場を広げることが可能になった。

横浜市みどり区の「みどりサンタプロジェクト」に初参加。地域の子どもたちと保護者の方々、東洋英和女学院大学、横浜創英大学、昭和大学の学生たちと一緒に十日市場駅周辺のゴミを拾い、子どもたち向けの環境教育もおこなった。

東日本大震災被災地スタディツアーとして、宮城県気仙沼市と岩手県陸前高田市を1泊2日で訪問。1日目は気仙沼市に滞在。「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」を訪問し、語り部ガイドから震災当時の様子を詳しくご説明いただいた。2日目は岩手県陸前高田市に移動。「東日本大震災津波伝承館岩手 TSUNAMI



みどりサンタプロジェクト

メモリアル」「高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設」を訪問。パークガイドに同行していただき震災遺構である気仙中学校の校舎内を見学し、陸前高田ユースホテルと奇跡の一本松についても説明をうかがった。現在の VG メンバーは東日本大震災時に小学生だったこともあり、実際に被災地を訪問して震災当時の様子をうかがい震災遺構を見学させていただくことは貴重な体験であった。この体験をもとに、今後 VG メンバーが東工大生を対象とするスタディツアーを企画開催する予定である。

➤ ピアサポーター

全国大学保健管理協会第 60 回関東甲信越地方部会にて「多様な相談窓口によるネットワーク支援～ピアサポーターとして伝えたいこと～」を学生 4 名が発表した (小川康輔、野村彩乃、松尾祥汰、黄文青)。

2022 年度は学外のピアサポーターとの交流を再開することができた。北星学園大学ピアサポーターが本学を訪問。本学から広島大学と名古屋大学のピアサポートルームを訪問。いずれの大学とも互いの活動について情報交換をおこない交流を深めた。

(相談活動とびあのわについては他項目に記載したので、ここでは割愛する)

➤ 留学促進団体 FLAP

全ての東工大生にとって留学が当たり前の選択肢になることを目標に活動している。2022 年度は海外での入国制限が緩和され、日本からの留学が実現可能になったことから、FLAP メンバーも複数名が留学に旅立ち、留学未経験の東工大生を対象とするイベントや相談会を複数開催することもできた。zoom も積極的に活用し続けている。

➤ クラウドファンディング

サイクリング部ボール班が本学初クラウドファンディングプロジェクト「東京工業大学サイクリング部の挑戦！サイクルサッカーを未来へ繋ぐ！」を 3 月に募集を開始し、5 月にプロジェクトを達成させた。寄付金総額は 1,523,000 円である。

管弦楽団が「東京工業大学管弦楽団 | 皆様と共に創立 100 年を迎えその先の未来へ！」を 12 月に募集を開始し、2 月にプロジェクトを達成させた。寄付金総額は 2,747,000 円である。

【修学・国際交流支援担当】

■ 修学支援担当

➤ 学修コンシェルジュ Jr.広報班の活動

学修コンシェルジュ Jr.広報班では、2018年より「東京工業大学学修コンシェルジュ LINE 公式アカウント (@jfo9335x)」を運営し、おもに学士課程1年生向けに月に2回の記事配信を行っている。初めての大学生活を送る学士課程1年生に対して、タイムリーに教務（履修申告、試験日程など）、学内イベントなどの情報を確実に手元に届けることを目標に、学修コンシェルジュ Jr.広報班が年の近い学生目線で記事を作成している。

学修コンシェルジュの支援のもと、修学・国際交流支援実施委員会の先生方の確認を経て毎回の記事配信を行っており、2022年度は号外配信含め27回の配信を行った。登録ユーザー数（2023年5月25日データ）は、友達追加4463、ターゲットリーチ3466となっている。

学修コンシェルジュ Jr.広報班は、東工大に入学してきた学生達にとって有意機な情報をハンドアウトの形でまとめて発行する活動も行っている。ハンドアウトの1つは「Tokyo Tech Study Tips」で、もう1つは「私はこうして進路を決めた～教員インタビューシリーズ」である。2022年度は、「Tokyo Tech Study Tips vol.10 ものづくりセンターに行ってみよう（2023年2月4日発行）」「インタビュー第7弾 私は進路をこうして決めた 環境・社会理工学院 塚本由晴教授」の2本をリリースした。

Tokyo Tech Study Tips は、学士課程新入生ガイダンス用に、これまでのTips集を基本編と発展に分類整理し「Tokyo Tech Study Tips 2023」冊子を作成した。

➤ 学修コンシェルジュ Jr.ガイダンス班の活動

学修コンシェルジュ Jr.ガイダンス班は、春の学修コンシェルジュによる学士課程ガイダンスを企画・運営するために、週1回の定例活動を通年で行った。ガイダンス後は、次年度の企画につなげるための振り返りと受講生アンケートの集計・分析を行った。6月は新メンバーの募集、9月～10月に学修コンシェルジュ Jr.全体で合同研修を行った。研修後からは、次年度のガイダンスに向けて具体的に活動を行った。ガイダンスプログラムの企画、配布資料の作成、蔵前工業会学修コンシェルジュとの打ち合わせ、リハーサル等をスケジュールに沿って進めた。2022年度は、「ようこそ東工大へ ここから学びをデザインしていこう」というコンセプトのもと、ガイダンス配布資料を一新し、「学びのデザイン 2023」冊子を新規に作成した。



「学びのデザイン」と「Tokyo Tech Study Tips 2023」

■ 国際交流支援担当

学修コンシェルジュ Jr.国際班の活動

➤ 多言語チャット

学修コンシェルジュ Jr の母語または得意な言語（英語・中国語・韓国語・フランス語）により開催日に分け、参加学生に気軽に外国語または母語をチャットしてもらおうイベントを企画・運営した。言語ごとの開催数と参加人数は次の通り。

- ・ 中国語：12月・1月に各3回、計11名参加
- ・ 英語：12月6回・1月7回、計17名参加
- ・ フランス語：12月3回、1月・2月各1回、計8名参加
- ・ 韓国語：12月3回・1月2回、計10名参加

➤ 留学生ヘルプデスク

12月～2月の毎週木曜日 10:45～12:45 にグローバルラウンジ入口に机と椅子を設置し、留学生の相談に対応するためのスペースを開設し、ヘルプデスクを開催した。大学の年末年始休暇、学生の春休み期間と重なり、利用につながらなかった。

➤ その他

- ・ 2月22日には『グローバルラウンジのありたい未来』と題し、グローバルラウンジの活性化を促す方法などを学修コンシェルジュ Jr、TPG 学生と教職員を交えて話し合った。

V. Taki Plaza での学生との協働

内容	担当	時期	実績
TPG (Taki Plaza Gardener) との協働	学生支援課、山田	ミーティング随時開催	東京藝術大学見学 (2/24)
Attic Lab との協働	学生支援課、伊東	ミーティング随時開催	
理学院学習相談室との連携、ILAライティングセンターとの連携、地下1階チュータリングブース運営	修学・国際	打ち合わせ随時開催、ブースのシフト作成とウェブサイトへの掲載、毎日のブース運営 (掲示を出すなど)	

【TPG、Attic Lab との協働】

未来人材育成部門では、Taki Plaza を拠点として活動する学生団体「TPG」(注1)「Attic Lab」(注2)と協働している。2022年度には、Taki Plaza 運営委員会にて、この2団体はTaki Plaza 運営委員会直下の団体であり、学生支援課及び未来人材育成部門所属教員の支援を受けることが決まった。2023年2月24日には、学生支援課、学生支援センターの教職員とこの2団体の学生で、東京藝術大学 Taki Plaza を見学し、先方の職員と意見交換を行った。

(注1)TPG ウェブサイト (<https://www.tpgd.jp/about-us>) から引用

Taki Plaza Gardener(TPG)は、サークルとも部活動とも異なる、大学から Taki Plaza を運営する団体として支援を受けている学生委員会です。TPG の役割を一言で表すと Taki Plaza の「能動的な裏方役」です。

(注2) Attic Lab ウェブサイト (<https://atticlabcommittee.wixsite.com/website>) 参照

Attic Lab はおもに2階を拠点にし、「やりたいことをやってみる関係はアントレプレナーシップにつながる」というコンセプトのもと、東工大全体をより多様で創造的な組織にするため、やりたいことを自由に実現できる場づくりをしています。

【理学院学習相談室との連携、ILAライティングセンターとの連携、地下1階チュータリングブース運営】

学修コンシェルジュ窓口では、Taki Plaza 地下1階相談ブースエリアにて、理学院学習相談室、ILAライティングセンター、ピアサポーターと連携し、学生同士のチュータリングブースを運営している。チュータリングブースには、6つの勾玉型机(チュータリングブース)があり、曜日と時間によって以下の相談(チュータリング)が実施されている。2022年秋学期からは、ここに挙げるすべての相談室が対面で相談(チュータリング)を実施した(各相談室の詳細は、それぞれの相談室のウェブサイトに記載されている)。

- ・数学相談室(理学院数学系)
- ・物理相談室(理学院物理学系)
- ・化学相談室(理学院化学系)
- ・東工大ライティングセンター(リベラルアーツ研究教育院)
- ・理工系教養科目チュータリング(学修コンシェルジュ窓口)
- ・ピアサポーター(自律支援窓口)



理学院学習相談

VI. 学外での活動報告

- 初年次教育と学生支援—学生支援の枠組みで出来ること—
伊東幸子 初年次教育学会第15回大会発表要旨集 51-52 2022年9月
- 理工系研究大学における初年次教育の日米比較研究
伊東幸子, 野崎雅子
ANNUAL REPORT of THE MURATA SCIENCE FOUNDATION No.36 2022.12 616-624
- ピアサポート活動における研修の実際と展開 —持続可能で効果的な活動のために—
高田 純, 山田恵美子, 齋藤憲司 東京工業大学保健管理センター紀要 9 56-62 2023年2月
- コロナ禍におけるピアサポート活動の新たな展開とその課題
高田純, 山田恵美子, 齋藤憲司 CAMPUS HEALTH 60(1) 265-267 2023年3月

Ⅶ. その他

その他	内容	担当	時期	実績,参加人数	備考
広報	電子掲示板	自律	毎週更新(4月～2月, 3月はシステム更新のため停止)	配信依頼数87件	ディスプレイ設置箇所:【大岡山キャンパス】体育館入口、附属図書館、生協第二食堂、コミュニティ&ワークラウンジ、【すずかけ台キャンパス】B1棟、附属図書館、生協食堂
実施委員会	自律支援	自律	5/30,8/24,10/31,12/19,3/17	14名,13名,14名,11名,13名	
	キャリア支援	キャリア	5,6,10,11,2(全5回)	構成員15名	
	修学・国際支援	修学・国際	5月,7月,11月,1月,3月(年5回)	22名,25名,21名,22名,3月分未定	
他部署等への協力	Team東工大会議にて学勢調査の活動報告	自律	4/20		学勢調査学生スタッフが発表
	第10回学士課程ガイダンス及びオリエンテーション情報交換会での報告	自律	8/1		
	学生と教職員を結ぶカウンセリング懇談会での話題提供	自律	11/16		
	女性活躍応援フォーラム「理系+ (プラス) ～理系を超えたその先に～」にてパネリスト参加	自律	11/26		ピアサポーター1名、東工大VGメンバー1名
	第81回カウンセリング懇談会	自律、キャリア	3/9		東工大VG、ピアサポーター学生たちも発表
	業界勉強会(蔵前工業会実施)での講演	キャリア	6/12,19		
	蔵前k-meet II 勉強会での講演	キャリア	4/2		
	就職活動相談会(蔵前工業会)での講演	キャリア	2/10		
	留学生交流課主催「留学生フェア」講演を実施。	キャリア	10/27		
	(海外への留学を考えている学生向けに 留学と就職に関して、参加学生15名程。)				
	「留学の手引き」に『就職と留学について』寄稿(パンフレットにもなること)	キャリア	2/10		
	物理学系就職説明会での講演	キャリア	12/22		
	産経新聞、ワークスジャパンから就職活動に関するインタビュー12月(1/10付産経新聞朝刊に掲載)	キャリア			
	博士留学生向け面接対策セミナー(IIDP)への企画協力、面接官として参加	キャリア	2/18,25		
	修士キャリアデザイン演習授業担当	守島、伊東	第1Q～第4Q合計8クラス		
	グローバル理工人コース授業への参画	守島、伊東	キャリアワークショップ(2時間)×2回 2/13/3/1		
	越境型プロジェクトワークショップでの講評	キャリア	3/4		
	3卓越合同説明会での講演	キャリア	9/21		
	蔵前(蔵前工業会)情報交換会	キャリア	7/13、8/10、8/25		
	生命理工学院新入生オリエンテーション、系所属セミナー(学修ポートフォリオの使い方)	伊東			
調査・情報収集	広島大学ピアサポートルーム	自律	2/16	学生(ピアサポーター)6名、教員2名	
	名古屋大学ピアサポートルーム	自律	2/17	学生(ピアサポーター)6名、教員2名	
	企業採用担当者との面談	キャリア		10社	
	留学生就職活動アンケート	キャリア	8月	242名回答	
	就職体験記	キャリア		38件投稿(2023～2024卒業)※これまでの合計144件	
	就職活動状況調査	キャリア	2月～3月	最終学年で民間企業内定者対象	
	博士の進路状況等調査	キャリア	3月	博士後期課程全員対象	
	2024就職ガイドブック(冊子・デジタル版・アプリ)作成	キャリア	10月中旬刊行	2000部	
	留学生就職ガイドブック(PDF版・完全オリジナル)作成	キャリア	11月初め	PDFをウェブサイトにアップロード	
	UCLA	学務部、伊東	2/3		
	カリフォルニア工科大学	学務部、伊東	2/6		
	早稲田大学ICC	国際、Jr.	2/28		
	国際教養大学	伊東、Jr.	3/15		
全学会議	学士課程ガイダンス及びオリエンテーション情報交換会	修学・国際	8月,12月	36名,43名	
	就職担当教員懇談会	キャリア	5/20,11/18	56名,71名	
未来人材応援プロジェクト	運営ミーティング	学生支援課、伊東	1回/週		
	Taki Plaza講演会	学生支援課、伊東	10/18	58名参加	登壇:大隅良典先生、池上彰先生、益学長
	みらい創造チャレンジ	自律・伊東	R3年度採択プロジェクトは5月23日最終成果報告会にて活動終了。R4年度採択プロジェクトは6月募集開始、7-8月の審査を経て、9月から採択プロジェクトとして活動開始。	R4年度募集は15件応募から6件採択。「おおお知るまち」「避難所の新しい基準～バルーンハウスの改良および寄贈～」「Kitmeeキッチンカーの出店情報を伝えるモバイルアプリの開発」「ArTechコンテスト」-芸術的なロボット技術コンテスト-「のびのびボンチョ」「glober:東京グローバルコミュニティの構築と国際交流促進」である。なお、globerについてはR5年2月支援取り消しとなった。	採択プロジェクトは毎月活動報告を提出、zoom報告会でも2-3回報告。R3年度採択プロジェクトの最終報告会をR4年5月実施。R4年度採択プロジェクトの最終報告会はR5年6月実施予定
	Techクッキングスタジオ	学生支援課、伊東	11/15	41名参加	
	ウェブサイト作成(外注)	学生支援課、伊東	6月完成		

その他	内容	担当	時期	実績,参加人数	備考
芸術と科学の融合プロジェクト	第1回開催：事前学修（オンデマンド）・宝塚観劇・事後学修（対面）	学生支援課、伊東	1/22観劇、2/12事後学修	学生：観劇希望応募数370名から抽選により10名、TPG4名参加 教職員：6名	リベラルアーツ研究教育院共催
ワークショップ	第1回TakiPlazaのありたい未来を考えるワークショップ開催（2日間）	学生支援課、伊東	11/2,9	1日目30名（教職員19名、学生11名） 2日目28名（教職員18名、学生10名）	
四大学連合	四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム 東工大キャンパスツアー	伊東	12/12	外語大6名、一橋大1名、医科歯科大4名 東工大教職員7名、TPG6名	協力：OFC、ものづくりセンター、遠藤玄研究室 環境・社会理工学院：村田先生 ツアー後、TPGによる活動紹介を行う
	四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム「大人のためのゼミ」「ポストコロナ社会構築に向けた調査研究」学生参加者の募集・取りまとめ	伊東	6月～随時		
	四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム事務局会議	伊東	6月から隔週	外語大、一橋大、医科歯科大、東工大教職員約20名参加	
対外発信	NACADA's 2022 Annual Conference	修学・国際	2022/10/23～26		オレゴン州ポートランド
	42th. Annual Conference on the First-Year Experience	修学・国際	2023/2/2～8		カリフォルニア州ロサンゼルス
	公益財団法人村田学術振興団 研究助成報告書「理工系研究大学における初年次教育の日米比較研究」	伊東、野崎	2022年12月	https://corporate.murata.com/~/_/media/corporate/group/zaidan/re http://www.jafye.org/wp-content/uploads/JAFYE15_free.pdf	
	初年次教育学会	修学・国際	9月5日、6日多摩大学、2報告		
業務改善	学修コンシェルジュウェブサイト、学修コンシェルジュrウェブサイト大幅更改	修学・国際			
	学修コンシェルジュr.研修の大幅更改	修学・国際			
	学修コンシェルジュLINE公式アカウント運用ルール作成	修学・国際			
部門内プロジェクト	留学生支援強化PJ	キャリア	通年		アンケート調査、インタビュー調査実施、実施委員会に報告

【キャリア支援担当】

- ▶ 今年度は新たに博士後期課程の3卓越大学院の説明会での講演や「博士の進路状況調査」のトライアルを実施した。博士の進路状況調査に関しては来年度、正式実施に向けて調査項目等の検討を行う予定である。
- ▶ 留学生の支援に関しては、昨年に引き続き、博士の留学生向けの「面接練習会」にも面接官役で参加した。また、昨年から実施している「留学生就職活動アンケート」も2年目となり、これらのデータも活用し「留学生支援プロジェクト」を立ち上げた。東工大の留学生の日本就職の現状や課題について、他大学の事例や、留学生OBや企業のインタビュー等を通じて明らかにし、具体的な支援策の策定を行った。
- ▶ その他、例年通り、企業の採用担当者へのインタビューも10社程行い、相談の現場にも活かしている。東工大就職ガイドブック、留学生就職ガイドブック（全編英語）の発行も秋に実施した。どちらもネットでの閲覧が可能であり、東工大生の就職活動の手引書的な位置づけとなっている。就職活動体験記への体験記の投稿に関して学生への働きかけを行い収集をし、後輩たちが就活をする時に参考にしている。

【自律支援担当】

- ▶ 電子掲示板システム

従来運用してきたシステムと、タキプラザにて運用しているサインージシステムとの統合をおこなった。システム統合とコントローラー交換により、ネットワークセキュリティー上の懸念が解消されることになった。

生協第二食堂に設置していた電子掲示板ディスプレイ3台のうち2台を故障のため廃止・撤去することにした。代わりに本館地下のコミュニティ&ワークラウンジに電子掲示板ディスプレイを3月7日に新設した。

- ▶ 他部署等への協力

「第10回学士課程ガイダンス及びオリエンテーション情報交換会」では「ピアサポーターによる新入生相談」「学勢調査2022」について報告した。「学生と教職員を結ぶ拡大カウンセリング懇談会」では「学生の諸活動の紹介とメッセージ『今から入れるサークル・ボランティア等の諸活動』」を学生2名とともに話題提供した。「第81回カウンセリング懇談会」では「自律支援の活動」について教職員向けに紹介した。

【修学・国際交流支援担当】

■ 修学支援担当

- ・学修コンシェルジュの業務の体制を強化するため、以下の業務改善を実施した。
- ・学修コンシェルジュウェブサイト改修
- ・学修コンシェルジュ Jr.ウェブサイト新設
- ・学修コンシェルジュ Jr.合同研修改修
- ・学修コンシェルジュ LINE 公式アカウント運用ルール制定

■ 国際交流支援担当

留学生と日本人学生の交流支援、日本人学生の国際性涵養の参考となる他大学事例を収集するため、3校の他大学視察を行った。

1. 東京藝術大学見学 (2/24)

TPG、Attic Lab の学生有志と教職員で東京藝術 Taki Plaza を視察した。先方は学生へのオープン前であったが、藝大らしい、関係者の芸術作品が有機的に組み込まれた Taki Plaza を見学し、関係する職員の方々との意見交換を行うことができた。

2. 国際教養大学見学(2/14)

学修コンシェルジュ Jr.の学生有志と教職員で秋田の国際教養大学を視察した。学士 1 年生は全寮制、徹底した英語教育、全員が留学するなど、日本人学生の国際性涵養のための教育や制度のあるべき姿について、多くを学ぶことができた。

3. 早稲田大学 ICC 見学 (2/28)

学修コンシェルジュ Jr.2 名と教職員 3 名で 2 月に早稲田大学の ICC（異文化交流センター）を見学した。イベントの企画・運営・広報など全て学生が担い、専任及び非常勤の教職員が後ろで支え、年間 250 以上のイベントを開催するこのグループの活動は大いに刺激になった。

3. 今後に向けての課題

学生相談部門

未来人材育成部門

学生相談部門 今後に向けての課題

～統合そして多様性にむけて～

I. 医科歯科大学との統合に向けて

2024年より東工大は医科歯科大学と統合する。医科歯科大学は、充実した学生支援体制・障害学生支援体制をもっているが、教員がおこなう学生相談室に相当する部門はないとかがっている。統合後は、学生相談室で得られた知見が、医学部学生にも役に立つことを願い、対応の準備をしていきたい。

理学院・工学院の教員である相談員は、医療とそれにかかわる研究・工学的な仕事等への助言が出来るようになる。

II. 留学生支援

留学生からの相談は年々増加し、また深刻な場合も少なくない。長年留学生相談に対応してきた教員、英語を母語とする教員による親身な相談がおこなわれている。それらが継続されるとともに、その知見から、留学生が益々スムーズに研究できるよう援助し、またFDや注意喚起等に関与できたらと考えている。

III. 女子学生の相談の充実と大学への提案

今後、女子学生の増加が予測される。女子学生の相談は今も年々増えている。女性のキャンパスライフの充実、人生設計に関する悩みにも対応していきたい。

IV. 性別にこだわらないすべての学生に対する相談の充実

多様性の中には、当然単純な男女の分類にはおさまらない幅広い性自認の学生がいる。どのような立場の人にも居やすいキャンパスとなるよう情報発信を続けていきたい。バリアフリーマップから気軽にジェンダーレストイレや着替えの場所への案内をおこなってきたい。

V. 障がい学生支援へのさらなる関与

大学における障がい学生支援が公的な義務となってから、まだ日が浅いため、支援にとまどう先生方も多い。少しでも多くの先生方に負担のない支援をおこなっていただくため、個別にFD研修を行っていったらと願っている。支援の主体である先生方の力になれるよう工夫していきたい。

未来人材育成部門 今後に向けての課題

2022年度の最大のトピックスは、部門に専任教員枠2枠（マネジメント准教授、マネジメント教授）が認められ、長く学生支援センターで活躍してくださっている山田恵美子先生（自律支援コーディネーター）、守島利子先生（キャリアアドバイザー）がそれぞれ2022年9月、2023年4月に着任されたことです。大学の予算やポストが大変に厳しい中、ご配慮をいただいたことに心から感謝いたします。しかし引き続き、未来人材育成部門の活動は、非常勤の専門職の皆さん、非常勤の事務支援員の皆さんの献身的な努力に大きく依存しています。学生支援を担う職員には高い専門性に加えて、一般論ではない大学や学生の個別の特徴に応じた支援を行う力、学内外の関係者との不断の関係構築を行う力が必須です。これらの力を身に付けるためには、東工大で長期の学生支援業務経験を積む必要があり、この役割に意欲と熱意を持って取り組む多くの方々に、より安定し、努力や業績に応じた処遇（ポスト、教育研修など）を実現することが今後に向けての最大の課題と考えます。

2022年度には、リベラルアーツ研究教育院、環境・社会理工学院、未来産業研究所、東京医科歯科大学の先生方など、学内外の多くの方々と協業で「科学技術と芸術の融合プロジェクト」が発足しました。高い科学技術力を活かして実現する「宝塚歌劇」の舞台を学生と教職員で観劇し、事前・事後にオペラ、演劇、経営、建築、音響、ダンス医学といった多彩な観点から教員が行うレクチャーが用意され、教員のファシリテーションで学生達が観劇体験を振り返る時間も設けられています。未来人材育成部門は、これまでも、現役アーティストや現役企業エンジニアをお招きし、アートセミナー、IoT導入教育セミナーなどの体験型、ワークショップ型の少人数セミナーを運営してきました。「科学技術と芸術の融合プロジェクト」は、これらの試みを一段進化させ、学生達と教職員が学外に出て経験を共有する、新たな展開となっています。2022年度はチケットの数が限られ少数の学生さんの参加となりましたが、来年度以降、より多くの学生が参加できる安定的な枠組みでの運用を目指したいと思います。

2021年にキャリア支援、自律支援、修学支援、国際交流支援の4部門が1つとなり未来人材育成部門になりました。物理的にもTaki Plazaの地下1階に皆が集まったことで、少しずつ、旧部門間の壁が薄くなってきていると日々感じます。2021年から、滝久雄様のご支援をいただき、蔵前工業会、学生支援課と協業の体制で、未来人材育成部門全体で実施する「未来人材応援プロジェクト」が始まり、2022年は2年目を迎えました。しかし、この年報を見ると、いまだに「旧部門」の壁を感じられることもあるかと思えます。引き続き、壁を取り払い1つの部門として活動していけるよう努力したいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 2022年度学生支援センタースタッフ一覧

2022年度 学生支援センター委員名簿一覧

2022年度 学生相談部門スタッフ一覧

2022年度 学生相談部門委員名簿一覧

2022年度 未来人材育成部門スタッフ一覧

2022年度 未来人材育成部門委員名簿一覧

2022年度 学生支援センター委員名簿一覧



学生支援センター運営委員会

副学長（学生支援担当）/学生支援センター長 教授	岡村	哲至
学生支援センター学生相談部門長 教授	道又	紀子
学生支援センター未来人材育成部門長 教授	伊東	幸子
生命理工学院/イノベーション人材養成機構長 教授	蒲池	利章
工学院（システム制御系）/保健管理センター長 教授	三平	満司
保健管理センター 教授	齋藤	憲司
学務部長	安達	元英
学生支援課長	平山	隆広
教務課長	堤田	直子

2022 年度 学生相談部門スタッフ一覧

学生相談部門長

道又 紀子



学生相談室担当

学生相談室副室長

一瀬 宏

学生相談室副室長

柳田 保子

相談役

高原 弘樹

事務支援員

櫻庭 聡子

事務支援員

前田 明美



バリアフリー支援室担当

バリアフリー支援員 (支援室副室長)

曾我 有可

バリアフリー支援員

小林 綾香

バリアフリー支援員

川島 正義

相談役

高橋 篤司

事務支援員

三沢 慶子



電話相談デスク担当

電話相談デスク相談員

上野 修一

電話相談デスク相談員

河内 宣之

2022 年度 学生相談部門委員名簿一覧



学生相談室委員会

学生支援センター教授	道又	紀子
生命理工学院（生命理工学系生命理工学コース）教授	一瀬	宏
科学技術創成研究院（未来産業技術研究所）教授	柳田	保子
理学院(物理学系)教授	慈道	大介
工学院（機械系）教授	奥野	喜裕
工学院（システム制御系）教授	中尾	裕也
工学院（情報通信系、サイバーセキュリティ研究センター）教授	尾形	わかほ
物質理工学院（材料系）准教授	林	智広
物質理工学院(応用化学系)准教授	青木	才子
情報理工学院（数理・計算科学系）講師	澄田	範奈
生命理工学院（生命理工学系）教授	清尾	康志
環境・社会理工学院（建築学系）准教授	沖	拓弥
環境・社会理工学院（イノベーション科学系）准教授	中丸	麻由子
科学技術創成研究院（化学生命科学研究所）准教授	庄子	良晃
リベラルアーツ研究教育院准教授	福留	真紀
科学技術創成研究院（ゼロカーボンエネルギー研究所・応用化学系）准教授	鷹尾	康一朗
科学技術創成研究院（フロンティア材料研究所・材料系）教授	川路	均
生命理工学院（生命理工学系生命理工学コース）准教授	下嶋	美恵
リーダーシップ教育院准教授	木山	ロリンダ
保健管理センター教授	齋藤	憲司
保健管理センター准教授	高田	純
リベラルアーツ研究教育院教授	山元	啓史
リベラルアーツ研究教育院講師	小松	翠
リベラルアーツ研究教育院准教授	佐藤	礼子
イノベーション人材養成機構准教授	RICINSCHI	DAN
イノベーション人材養成機構准教授	GONZALES HAZEL BANTORINO	
学生支援センター相談部門特任専門員電話相談デスク	上野	修一
学生支援センター相談部門特任専門員電話相談デスク	河内	宣之
学務部長	安達	元英
教務課長	堤田	直子
学生支援課長	平山	隆広
留学生交流課長	伊東	啓子



バリアフリー支援室 各学院等の監督者

理学院（化学系）准教授	沖本	洋一
情報理工学院（数理・計算科学系）教授	三好	直人
情報理工学院（情報工学系）教授	石井	秀明
工学院（情報通信系）教授	中山	実
物質理工学院（応用化学系）教授	戸木田	雅利
環境・社会理工学院（建築系）教授	五十嵐	規矩夫
環境・社会理工学院（建築学系）教授	元結	正次郎
環境・社会理工学院（土木・環境工学院）教授	高橋	章浩
環境・社会理工学院（融合理工学系）教授	高橋	邦夫
環境・社会理工学院（融合理工学系）教授	村山	武彦
環境・社会理工学院（社会・人間科学系）准教授	伊藤	亜沙
環境・社会理工学院（イノベーション科学系）教授	杉原	太郎
生命理工学院（生命理工学系）教授	山口	雄輝

2022 年度 未来人材育成部門スタッフ一覧

未来人材育成部門長
事務支援員

伊東 幸子
向井 圭子



キャリア支援担当

チーフキャリアアドバイザー
キャリアアドバイザー
キャリアアドバイザー
キャリアアドバイザー
相談役
事務支援員
事務支援員

守島 利子
安村 朗子
福岡 和歌
荻野 久美子
大友 明
竹尾 陽子
安藤 眞弓



自律支援（学生活動支援窓口）担当

自律支援担当マネジメント准教授
相談役
事務支援員
事務支援員

山田 恵美子
長谷川 純
吉江 綾子
小黒 七葉



修学・国際交流支援担当

学修コンシェルジュ
学修コンシェルジュ
学修コンシェルジュ
学修コンシェルジュ
相談役
相談役
事務支援員
事務支援員
事務支援員
事務支援員

野崎 雅子
黄 若白
加藤 美紀
平出 晶子
中村 健太郎
山浦 弘
奈須野 美穂
岡本 祐紀
杉山 裕子
李 育安

2022 年度 未来人材育成部門委員名簿一覧



学生支援センターキャリア支援実施委員会

学生支援センター教授	伊東	幸子
物質理工学院（応用化学系）教授	大友	明
環境・社会理工学院（建築学系）准教授	那須	聖
リベラルアーツ研究教育院准教授	佐藤	礼子
学術国際情報センター教授	西崎	真也
チーフキャリアアドバイザー	守島	利子
キャリアアドバイザー	荻野	久美子
キャリアアドバイザー	安村	朗子
キャリアアドバイザー	福岡	和歌
学生支援課長	平山	隆広
学生支援課支援企画グループ長	田中	寿弥
学生支援課すずかけ台学生支援グループ長	関口	広海
学生支援課支援企画グループスタッフ	高際	紋歌
学生支援課支援企画グループスタッフ	石山	莉沙
学生支援課支援企画グループ事務支援員	渡部	由香子
学生支援センター事務支援員	竹尾	陽子
イノベーション人材養成機構事務支援員	安藤	眞弓



学生支援センター自律支援実施委員会

学生支援センター教授	伊東	幸子
環境・社会理工学院（建築学系）教授	鍵	直樹
リベラルアーツ研究教育院（社会・人間科学系）教授	弓山	達也
リベラルアーツ研究教育院（社会・人間科学系）教授	猪原	健弘
科学技術創成研究院准教授（ゼロカーボンエネルギー研究所）准教授	長谷川	純
国際教育推進機構特任教授	太田	絵里
保健管理センター教授	齋藤	憲司
保健管理センター准教授	高田	純
学生支援センターマネジメント准教授	山田	恵美子
教育・国際連携本部 アドミッション部門特命教授	篠崎	和夫
超スマート社会卓越教育院/工学院特任教授	西原	明法
学生支援課長	平山	隆広
学生支援課支援企画グループ長	田中	寿弥
学生支援課支援企画グループスタッフ	高際	紋歌
学生支援課支援企画グループ事務支援員	久米	美香
学生支援センター事務支援員	吉江	綾子
学生支援センター事務支援員	小黒	七葉

 学生支援センター修学・国際支援実施委員会

学生支援センター教授	伊東 幸子
工学院（機械系）教授	山浦 弘
工学院（機械系）准教授	志村 祐康
環境・社会理工学院（建築学系）教授	五十嵐 規矩夫
環境・社会理工学院（融合理工学系）教授	神田 学
環境・社会理工学院（融合理工学系）教授	阿部 直也
リベラルアーツ研究教育院（社会・人間科学系）教授	室田 真男
リベラルアーツ研究教育院（社会・人間科学系）准教授	小泉 勇人
科学技術創成研究院（電気電子系）教授	中村 健太郎
リーダーシップ教育院講師	小松 翠
国際教育推進機構特任准教授	川島 佐保
学生支援センター特任専門員	野崎 雅子
学生支援センター特任専門員	黄 若白
学生支援センター特任専門員	加藤 美紀
学生支援センター特任専門員	平出 晶子
学生支援センター事務支援員	奈須野 美穂
学生支援センター事務支援員	杉山 裕子
学生支援センター事務支援員	岡本 祐紀
学生支援センター事務支援員	李 育安
学生支援センター事務支援員	向井 圭子
学生支援課長	平山 隆広
留学生交流課長	伊東 啓子
学生支援課支援企画グループ長	田中 寿弥
留学生交流課交流推進第3グループ長	下園 健一
学生支援課支援企画グループスタッフ	高際 紋歌
学生支援課支援企画グループ事務支援員	久米 美香
名誉教授（アドバイザー）	里 達雄
一般社団法人蔵前工業会	黒田 徹
一般社団法人蔵前工業会	浜辺 順彦
一般社団法人蔵前工業会	藤田 玲子
一般社団法人蔵前工業会	竹山 幸成
一般社団法人蔵前工業会	三好 泰介
一般社団法人蔵前工業会	大和田 政孝

5. 参考

将来構想資料

歴代学生相談室室長

リンク集

将来構想資料



将来構想 学生支援センター

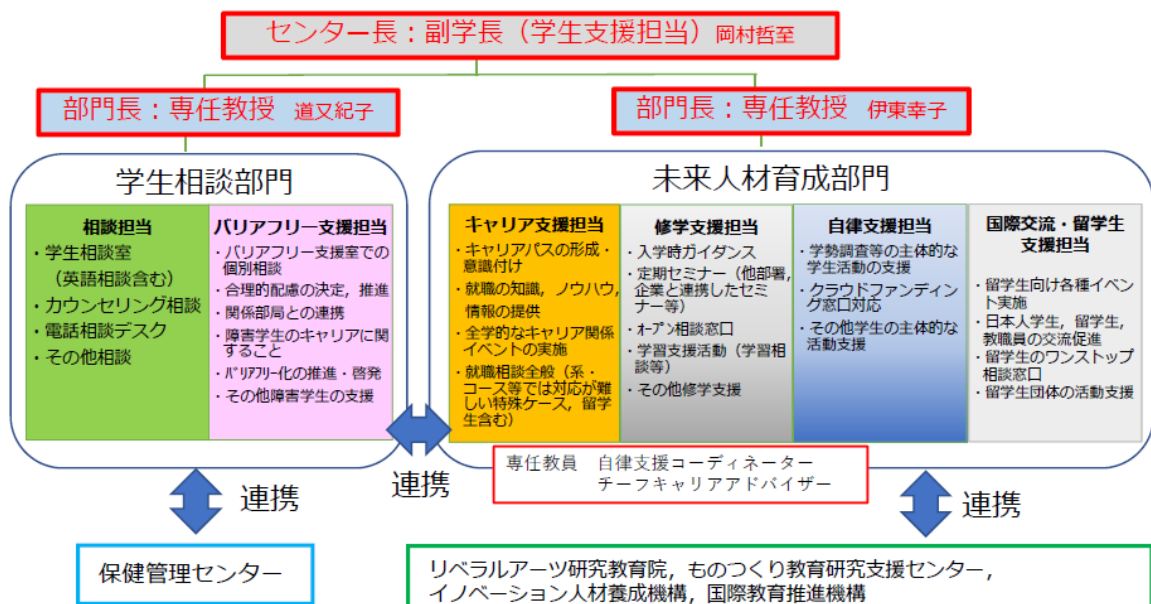
2022年7月21日（木）

2021年4月 学生支援センターの改組



学生支援センター改組後の組織図（2021.4～）

（目的）学生支援センターは、東京工業大学における大学教育の一環として、日本人学生、留学生を問わず全ての本学学生に対し、支援業務を総合的に行い、もって、学生の人間的な成長及び自律を図り、科学技術の高度な専門能力を基礎とする豊かな創造性を兼ね備えた社会のリーダーとなり得る人材の育成に資することを目的としている。



※各部門における事務体制についても、より効率的な業務が行えるよう、見直しを検討中

アクションパッケージへの対応（全体）

1. AP1-1 学士課程の教育, 方策6 & AP1-2 大学院課程の教育, 方策8

方策： <<学生同士の学び合い・教え合いの推進>>

実施指針： ・ILA科目のチューターを通じて、 ・語学パートナー、 ・ライティングセンター、
・Taki Plazaにおける様々な学生活動を通じた学び合い・教え合い

2. AP1-4 博士課程学生やポストドクターのキャリアパス

方策1： <<博士学生の社会的価値の見える化と産業界での雇用促進>> （教育推進プログラム室メイン担当）

実施指針： ・蔵前工業会が主催しているDr's K-meetへ大学からより積極的に貢献する。

方策3： <<博士人材が公的機関等で活躍する機会の拡大>>

実施指針： ・博士後期課程学生が省庁へ就職するキャリアパスの構築

3. AP4-5 内部統制とガバナンス

方策5： <<学生が大学運営に関与する機会の確保>>

実施指針： ・学勢調査の結果を学長宛に発信し、これを教育研究評議会で説明する現在の方法は継続する。
・学勢調査以外にも学生の意見を定期的に聴取する仕組みを検討し、実施する。
・能動的に大学運営に貢献する学生を大学としてオーソライズする仕組みを構築する。

3

アクションパッケージへの対応（個別項目:AP1-1, AP1-2）

1. AP1-1 学士課程の教育, 方策6 & AP1-2 大学院課程の教育, 方策8

方策： <<学生同士の学び合い・教え合いの推進>>

学生同士の学び合い・教え合いを通じた多様性をはぐむ教育を推進する

実施指針： ・ILA科目のチューターを通じて、 ・語学パートナー、 ・ライティングセンター、
・Taki Plazaにおける様々な学生活動を通じた学び合い・教え合い

★Action Package 旗印 2024.04.

**学び合い・教え合いを推進する学生達のための
ラーニング・アシスタント研修プログラムを確立する。**

★方法：現在、ピアサポーター、学修コンシェルジュr.各班で業務内容に応じて別々に実施している研修を精査し、
ラーニング・アシスタントとして共通に学ぶべき内容をパッケージにする。
業務内容ごとに必要な研修は、これまで通り別々に実施する。
ITTPC（国際チューター認証資格）を参照し、将来的に東工大で科目化を目指す。

★共通研修の内容（仮案）

- 1) 東工大における学生による学生の支援とは
- 2) 学生対応の基本
- 3) リーダーシップの基礎
- 4) 留学生への対応
- 5) 学生生活のキャリアデザイン
- 6) 質の高い学び合い・教え合いのために
 - 6)-1 大人の学習者、学習理論、学習スタイル
 - 6)-2 ロールモデル
 - 6)-3 コミュニケーション
 - 6)-4 積極的傾聴と言い換える力
 - 6)-5 キャンパスの資源や情報への精通
 - 6)-6 スタディスキル（文献の探し方、ブレインストーミング法、KJ法 等）
 - 6)-7 批判的に文献を読む方法

4

アクションパッケージへの対応（個別項目:AP1-4）



2. AP1-4 博士課程学生やポストドクターのキャリアパス

方策1：＜＜博士学生の社会的価値の見える化と産業界での雇用促進＞＞（教育推進プログラム室メイン担当）

産業界と連携して博士後期学生の育成を進め、能力を産業界に対して見える化し、博士の学位取得者が産業界で適切に雇用される仕組みを構築する。

実施指針：・蔵前工業会が主催しているDr's K-meetへ大学からより積極的に貢献する。

方策3：＜＜博士人材が公的機関等で活躍する機会の拡大＞＞

博士後期課程修了者の能力を幅広く社会で活かすために、産業界、アカデミアだけでなく省庁や国際機関などへの就職も重要なキャリアパスであることを学生に示す。

実施指針：・博士後期課程学生が省庁へ就職するキャリアパスの構築

★Action Package 旗印 2024.03.

博士後期課程学生の就職活動に関する調査を実施する。

調査に基づいて、博士人材の進路を多様化する方策を立案する。

★方法：2022年度に調査項目の洗い出し、調査設計 2023年度に調査実施・結果まとめ・方策の立案

主な就職先（人数の多い順）

資料出所：学生支援課による調査（令和3年度実績）

（速報値）



<学士>	(人)	<修士>	(人)	<博士>	(人)
楽天グループ	5	日立製作所	30	国内大学	15
NTTドコモ	2	野村総合研究所	21	海外大学	13
PwCコンサルティング	2	ソニー	19	東京工業大学	12
アウトソーシングテクノロジー	2	日産自動車	19	日立製作所	4
ワールドインテック	2	アクセンチュア	18	協和キリン	4
荏原製作所	2	パナソニック	17	Huawei Technologies	4
公務員(横浜市)	2	エヌ・ティ・ティ・データ	16	(国研)宇宙航空研究開発機構	4
公務員(厚生労働省)	2	Huawei Technologies	14	キオクシア	3
三菱総合研究所	2	PwCコンサルティング	14	三菱電機	3
Amazon.com	1	マイクロメモリアージャパン	13	中外製薬	3
TDK	1	東京ガス	13	東芝	3
NTTデータ	1	NTTドコモ	12	(共)分子科学研究所	2
シャープ	1	キーエンス	12	(国研)産業技術総合研究所	2
ソニー	1	キオクシア	12	AGC	2
テレビ東京	1	富士通	12	IHI	2
ファナック	1	ソニーセミコンダクタソリューションズ	11	TSMCデザインセンタージャパン	2
ヤフー	1	トヨタ自動車	11	エリクソン・ジャパン	2
奥村組	1	鹿島建設	11	コニカミノルタ	2
公務員(国土交通省)	1	東京電力ホールディングス	10	ソニー	2
公務員(特許庁)	1	日鉄ソリューションズ	10	ニコン	2
住友化学	1	日本製紙	10	奥村組	2
村田製作所	1	AGC	9	京セラ	2
東日本高速道路	1	東芝	9	興和	2
日産自動車	1	ソフトバンク	8	三井化学	2
日本アイ・ビー・エム	1	旭化成	8	三菱ガス化学	2
日本生命保険	1	楽天	8	三菱ケミカル	2
日立建機	1	三菱電機	8	第一三共	2
野村総合研究所	1	本田技研工業	8	富士通	2

現状では、省庁、国際機関などに就職する人は少なく、進路が多様化しているとは言い難い。

博士後期課程修了者が就職活動時に欲しい支援 (2022年3月卒)



博士の就職は特殊でありいつ活動をすれば良いかわからなかった。 そのため、3月に就職活動を開始したが、もうすでに企業の研究職ポストが埋まってしまっていたため、就職活動での長期の苦戦(就職先が決まるまでおおよそ10ヶ月)を強いられてしまい、研究活動が大いに停滞してしまった。 今後は、コロナショックやウクライナの情勢など博士の就職ではより苦戦が強いられると思います。 博士の就職活動開始時期について、D2の夏くらいからガイダンスがあっても良いと思います。
博士課程の就職の仕方(サンプル)に関する情報がもう少し欲しかった。
博士就職に関する情報を博士入学のタイミングでほしかったです。
学振や助教公募用の申請書の添削サービスがあるといいと思った 博士から違う研究室のポスドク、助教になるとき、所属研究室の先生は基本的に推薦状以外関与しないので頼れる人がいない。
ポスドクへの申込み方やCVの書き方アプローチの仕方など情報が一切無かった。アカデミアへの就職に関する情報が少なすぎる。

資料出所「東京工業大学 2022年3月卒業・修了学生 就職活動状況アンケート結果」
2.7. (Q7) 就職活動に際して、欲しかった情報や支援があれば教えてください。

博士の就職活動に対する情報が少ない。早めにアクセスできることが必要。多様な進路（アカデミア、民間、省庁、国際機関等）に応じた支援が必要。

7

アクションパッケージへの対応（個別項目:AP4-5）



3. AP4-5 内部統制とガバナンス

方策5：＜＜学生が大学運営に関与する機会の確保＞＞

最有力のステークホルダーである学生が大学の運営に携わる機会を作り、
学生が主体的に大学に係る方法を学生と一緒に構築する。

実施指針：・学勢調査の結果を学長宛に発信し、これを教育研究評議会で説明する現在の方法は継続する。
・学勢調査以外にも学生の意見を定期的に聴取する仕組みを検討し、実施する。
・能動的に大学運営に貢献する学生を大学としてオーソライズする仕組みを構築する。

★Action Package 旗印 2023.11.

学勢調査2022のキャンパスミーティングや結果説明を、部局に対して実施する。
(旗印は無し：Taki Plazaに関わってくれている2学生団体（TPG, AtticLab）と大学との関係を再構築する。)

★理由：学勢調査の「提言」はこれまで、執行部及び事務局を中心にフィードバックされてきた。
提言の内容によっては、学院等の部局と直接話をするほうがより提言の内容を正確に担当者に伝えることができ、提言の実現につながる可能性がある。
(例) 学勢調査2020の提言
・提言2-1 博士後期課程の文系教養科目
・提言2-4 クラス間の成績格差の是正
http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf

8

留学生就職活動の支援強化

スケジュール：

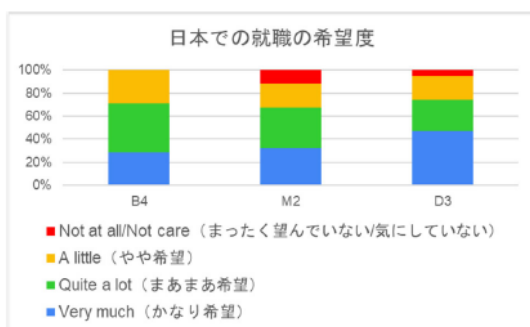
- ★2021年度 留学生就職活動調査実施
- ★2021年度 留学生就職ガイドブック（英語）発行
- ★2022年度 「留学生支援強化プロジェクト」 留学生の就職に関する包括調査実施中
 - ・他大学調査（横浜国大、横浜市大、群馬大学、東北大学 等）
 - ・東工大の科目調査（日本語科目、キャリア科目、インターンシップ科目）
 - ・留学生の上記科目履修状況の調査、科目履修と就職状況の関係の考察
 - ・卒業生インタビュー
 - ・企業インタビュー
 - ・上記をまとめ、東工大の留学生就職支援の施策立案
- ★2023年度以降 施策の実施

作業途中の感想：支援施策は十分にある。留学生が施策にうまくリーチできていない？

9

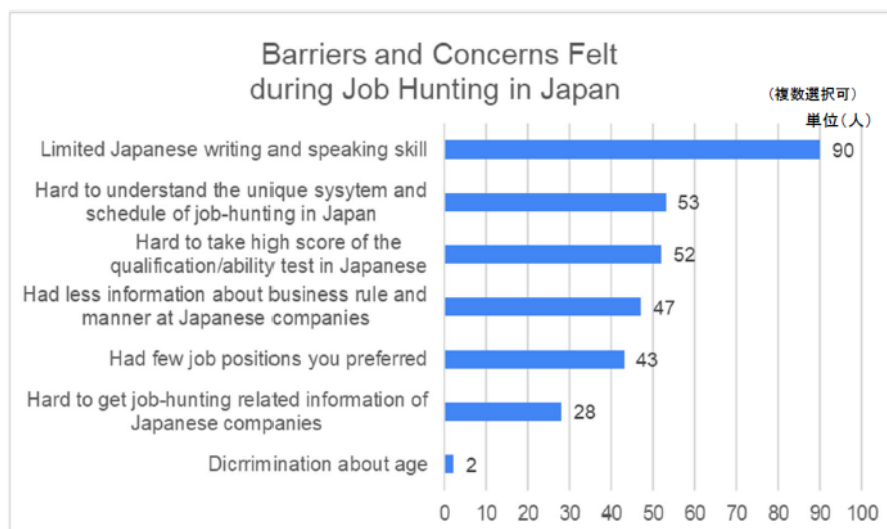
日本での就職希望割合と実際の就職割合

- 全体では約70%が日本での就職を比較的強く希望（「まあまあ」+「かなり」）
- 学年別の差はあるが、全ての学年で60%以上の学生が日本で就職希望（「まあまあ」+「かなり」）
- 一方で、日本でフルタイムポジション（企業・アカデミア）を得たのは34%にとどまる



10

- 日本人学生の多くが大変だと感じる就活で、言語や自国文化との差から、日本人学生以上に苦労している様子が見られる
- 最も多い困難は、試験対策も含め **日本語能力の不足**
- 次に **日本特有の就活システムとスケジュール**、**日本企業のビジネスルールの理解の難しさ**



11

アクションパッケージ対応以外の重点施策

学生相談の充実 – Diversity&Inclusionの実現 –

1) 女子学生の相談体制の充実

2) 博士課程学生の相談体制の充実

※博士課程在籍の女子留学生の相談等、問題はクロスオーバーしている。

3) 多様性に対応するキャンパスの構築

- ① ずずかけ台キャンパスのアクセシビリティ向上
- ② ALP(Accessibility Leader Program)の広報と普及
- ③ ユニバーサルデザインによる色覚バリアフリーの広報

12

1) 女子学生の相談体制の充実

- 学生相談室に相談に来る学生の内、**女子学生の比率は**、
2020年度**14.8%**、2021年度**23%**、2022年度（6月現在）**26.5%**と着実に伸びており、
今年度の総面接回数では、**31.7%**を占めている。（女性教員**11名**・内**non-Japanese 2名**で対応）
 - 女子学生の相談には、
 - 男性教員・男子学生との間でのやり取りに苦労している
 - 女性としての人生プランと研究の両立に悩んでいる
 - 家庭内の問題での負担が大きい（例えば家族の介護など）
などが顕著である。
- ↓
- 女子学生に向けた相談活動をさらに広報し**、
固有の問題の解決に積極的に関与し、
グループ活動を紹介する等（例えばガールズブラボー）
孤立しない支援を継続していく。

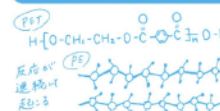
女子限定！女の子の友達と出会う ガールズブラボー

毎年4月の授業が始まる前に開催される女子学生限定の催し。20年以上の歴史があるこのイベントは、女子学生が少ない東工大で女子新入生の交流を目的としています。女子新入生のほぼ全員と、10名ほどの先輩女子学生も参加しますので、期を捕え、学年を越え交流できる絶好のチャンスです。2時間くらい続くケーキバイキングのなかで、自己紹介や、全員の席替えなど盛り上がりまわります。最後にケーキを一番多く食べた人には賞も授与されます。



上：やっぱり女の子同士、みんなすぐに仲良くなるみたい。友：好きなだけケーキを食われるというのも、ガールズブラボーの広れちゃいけない魅力！

Reaction3 重合



分子が結合し、より大きい分子化合物（重合体）になること。重合体では、元の分子から性質が変化し、さらに繋がりを加速することもある。いつの間にか繋がりが、顔に花を咲かせる東工大女子とどこか似ている？



ガールズブラボーでは同じ部だけでなく他の部や留学生の女子とも仲良くなって、嬉しいと同時に大変な所もあったです。男子が多い東工大での学生生活への不安を、少しでも解消できたいと思います！

13

2) 博士課程学生の相談体制の充実

- 博士課程学生の相談**は、実人数では全体の**13.4%**であるが、
総面接回数の**19.5%**を占めている
 - 博士課程学生は、ほぼ毎週の面談が卒業まで続くケースが多い。
適切な伴奏的役割が有効となる。
過年度生は就職に不利な学生が見受けられ、深刻な悩みとなっている。
- ↓
- グループ活動等の展開**：同期が少なく孤独を感じやすい立場にあるため、
博士課程学生同士の精神的な交流の場の設定をおこなっていく。

14

3) 多様性に対応するキャンパスの構築

① すすかけ台キャンパスのアクセシビリティ向上

- ・ **すすかけ台キャンパスのバリアフリーマップ**の作製
- ・ 障害学生理解についての適切な広報

② ALP(Accessibility Leader Program)の広報と普及

- ・ ALPの広報活動とリーダーの育成
 - ※Accessibility Leader Program : 2009年に発足した
アクセシビリティリーダー育成協議会が認定する資格名。
多様性に対応できるリーダーの育成プログラム
- ・ **アクセシビリティリーダーたちの交流の場**を作る。



アクセシビリティリーダープログラム
オンライン学習チャレンジ、資格取得も可能

【開催情報】
2022.04.18 2022年度の申し込み受付を開始しました。事前受付となります。オンライン講座の開催は8月と9月の2回となりますので、開催しお申し込み期間にご案内いたします。
2022.03.15 2021年度2級アクセシビリティリーダー認定試験を実施いたしました。
2022.01.11 2021年度2級アクセシビリティリーダー認定試験に合格したみなさま、おめでとうございます。

役立つ資格『2級アクセシビリティリーダー』を取得しませんか？

東京工業大学では、「人によさしい社会」をリードする人材育成の一端として、「アクセシビリティリーダープログラム (ALP)」を実施しています。多様性社会の様々なアクセシビリティについてオンライン（オンデマンド）講座で学び、「2級アクセシビリティリーダー」認定試験（12月の週末にオンラインで実施）を受験することができます。

受験に必要な学習時間の合計はおよそ7時間。本学の学生・教職員は無料です。

③ ユニバーサルデザインによる色覚バリアフリーの広報

- ・ 本学で支援依頼が増えている**感覚過敏の学生**は**蛍光色等を苦手**としており、適切な広報が必要となる。
- ・ 色覚障害をもつ人（男性5%、女性0.2% フランス・北欧では男性の10%）は一定数おり文科省は「色覚問題に関する指導手引き」を示している。

次ページからは参考資料です。

1. 要員の増強 (ありがとうございます!)

- 1) 部門長の採用 (専任教員2名)
- 2) キャリアアドバイザー4名の勤務日増加
- 3) バリアフリーコーディネーターの増員 (1名)
- 4) 部門全体を見る事務支援員 (週3日) の配置 (2022年4月～)
- 5) 自律支援コーディネーター専任教員の配置 (2022年10月～)

2. プロジェクト

- 1) 「未来人材応援プロジェクト」発足 (2021年夏～)
- 2) クラウドファンディング東工大初号案件成立 (2022年3月)
- 3) 留学生就職支援強化プロジェクト開始 (2021年夏～)
- 4) 学士課程学修コンシェルジュガイダンス TakiPlaza初開催 (2022年4月)
- 5) 「国際交流支援」体制が発足 (特任専門員1 事務支援員2)
 - ・旧Hub-ICSの活動を引き継ぎ
 - ・ILA日本語セクション、国際教育推進機構、ものづくり教育研究支援センターと連携して企画を実施中。

17

Student Success Support Section

Student Successは、Kuh et al.(2010)の定義によれば
以下7項目

- 1) 学業達成 (学位取得)
- 2) 有意義な経験をすること
- 3) 学生生活に満足すること
- 4) 社会との関係を考慮した上で必要な知識・スキル・能力を獲得すること
- 5) 学業を中断しないこと (継続すること)
- 6) 学修目標を達成すること
- 7) 卒業後に良い業績を達成すること

Kuh, G. D., Kinzie, J., Schuh, J. H., & Whitt, E. J. (2011). Student success in college: Creating conditions that matter. John Wiley & Sons.

18

センター所属：17名

- ・女性16名
- ・外国籍1名
- ・専門職8名
- ・事務支援員8名
- ・様々な働き方

メンバーの多様性をプラスに活かす

教員・専門職は全員「学生個別支援」の専門性を持つ
(心理カウンセリング、キャリアカウンセリング、アカデミックアドバイジング、学習支援)

19

雇用している学生アシスタント 44名

ピアサポーター 20名

学修コンシェルジュJr. 24名

支援している学生団体 4

学勢調査 (有償ボランティア)

東工大VG (ボランティア・グループ)

Action (語学パートナーシップ)

FLAP (留学促進)

協力関係にある学生団体 2

TPG (Taki Plaza Gardener)

Attic Lab

実施委員会 3

キャリア支援実施委員会

自律支援実施委員会

修学・国際交流支援実施委員会

実施委員会委員としてサポートして下さっている先生方 (40名程度)

蔵前工業会メンバー (修学・国際交流支援実施委員会メンバー)

学修コンシェルジュ16名

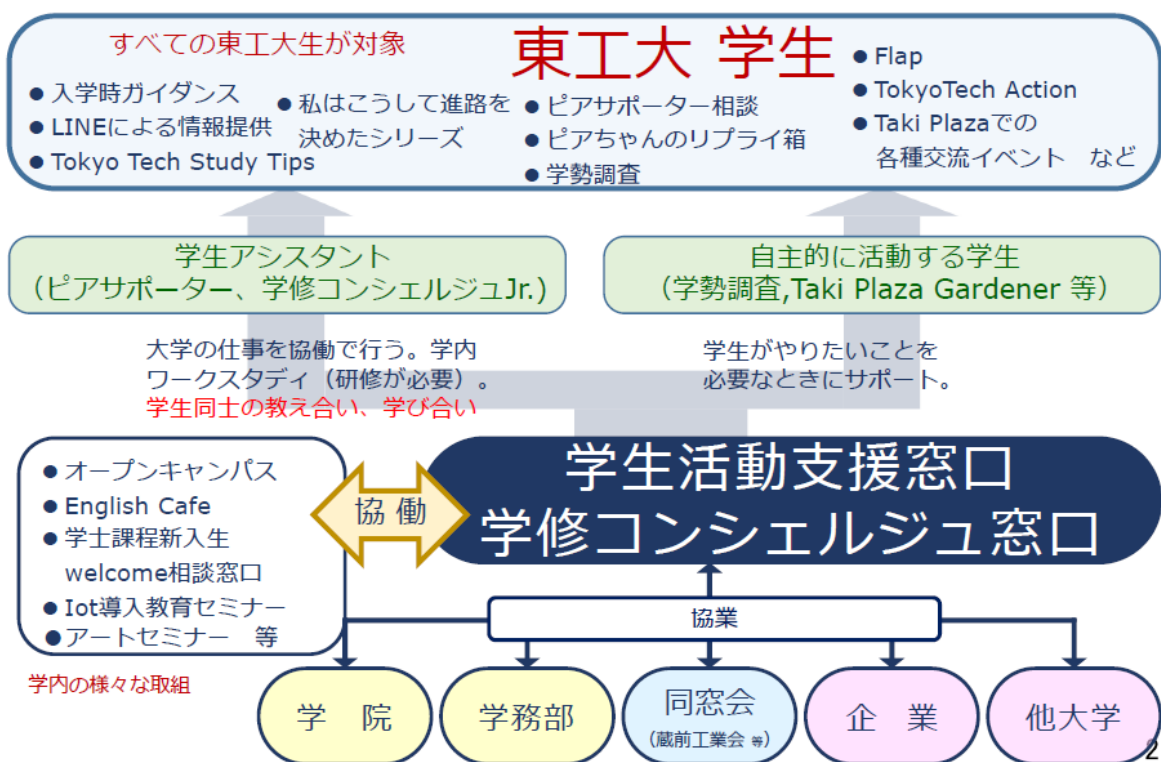
・学生と教職員の様々な協業が生まれる組織

・卒業生、現任教職員、現役学生の教え合い・
学び合いが生まれる組織

→ 日常業務が
「**チーム東工大**」

20

未来人材育成部門の学生活動支援の特徴



21

未来人材育成部門 将来計画

部門設立時の将来計画 (2020策定) + Action Package (2022)



- 将来計画1 初年次学生にとって共通的に必要な事項を科目化, 自律的な学び手の育成
- 将来計画2 多様なキャリア選択を可能にするセミナーの実施, 留学生の就職支援, 日本語科目との連携 卒業生とのつながりの強化
- 将来計画3 留学生相談窓口の一元化, 留学生と日本人学生との交流推進
- 将来計画4 学生支援センターにおける各学生団体の活動支援見直し
- 将来計画5 すずかけ台キャンパスでの支援体制の充実
- 将来計画6 ものづくり教育研究支援センター, ILA, IIDPとの連携
- 将来計画7 Taki Plazaでの活動, 新様式に沿った支援の在り方の検討

学生支援センター長水本哲弥(2020)「東工大のあらたな学生支援に向けて」

- **Action Package 旗印 2024.04.**
学び合い・教え合いを推進する学生達のためのラーニング・アシスタント研修プログラム (まずはピアサポーター、学修コンシェルジュJr.が受講) を確立する。
- **Action Package 旗印 2024.03.**
博士後期課程学生の就職活動に関する調査実施。調査に基づいて、博士人材の進路多様化方策立案。
- **Action Package 旗印 2023.11.**
学勢調査2022のキャンパスミーティング、結果説明を部局に対して実施。

22

- すずかけ台の支援体制強化：すずかけ台再開発に対応して、専任の多言語対応相談員・支援員の配置
- 大岡山バリアフリー支援員の常勤化：理工系に特化した問題対応のエキスパートの定着
- Gender-Freeな相談窓口体制の実現：女子学生だけでなく、LGBTQの学生も安心して相談できるよう研修を積み重ねる
- ALP資格広報のみならず、資格取得者の具体的な活躍を支援：アクセシビリティリーダーの交流の実現
- Diversity & Inclusionを学内に根付かせるための広報活動：個人情報に充分留意しながら、見えづらい障害をもつ学生もいることを一般学生に周知し、国際社会で常識となっているDiversity & InclusionをUpdateしていく

歴代学生相談室室長

昭和 44 年 7 月～48 年度	中村	正久	(金属工学科教授)
昭和 49 年度～54 年度	平井	聖	(建築工学科教授)
昭和 55 年度～58 年度	清水	二郎	(有機材料工学科教授)
昭和 59 年度～60 年度	日野	太郎	(電気工学科教授)
昭和 61 年度～62 年度	盛川	陽	(化学工学科教授)
昭和 63 年度～平成元年度	松本	浩之	(機械工学科教授)
平成 2 年度～4 年度	藤江	学	(一般教育 (保健体育) 教授)
平成 5 年度～6 年度	高久	明	(有機材料工学教授)
平成 7 年度～8 年度	大村	能弘	(物理学科教授)
平成 9 年度～10 年度	神尾	彰彦	(金属工学科教授)
平成 11 年度～12 年度	石井	源信	(人間行動システム専攻教授)
平成 13 年度～14 年度	加藤	雅治	(物質科学創造専攻教授)
平成 15 年度～16 年度	水流	徹	(材料工学専攻教授)
平成 17 年度～18 年度	香川	利春	(精密工学研究所教授)
平成 19 年度～20 年度	大熊	政明	(機械宇宙システム専攻教授)
平成 21 年度～22 年度	堀田	栄喜	(創造エネルギー専攻教授)
平成 23 年度～28 年度	熊井	真次	(物質理工学院材料系教授)
平成 29 年度～令和 2 年度	高原	弘樹	(工学院機械系教授)
令和 3 年度～現在	道又	紀子	(学生支援センター教授)

リンク集

I. 組織一覧（学生支援センター）

<https://www.titech.ac.jp/student-support/about/organization/institute-wide-support-centers/organization02>

II. 学生相談部門

- 学生相談室

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/guidance>

- バリアフリー支援室

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/barrierfree>

- 電話相談デスク

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/telephone>

- 東工大アクセシビリティマップ

<https://www.ssc.titech.ac.jp/amap/>

III. 未来人材育成部門

- 学生活動支援窓口

<http://www.siengp.titech.ac.jp/>

- ・ 学勢調査
- ・ 東工大 VG（学生ボランティアグループ）
- ・ 理工系学生能力発見開発プロジェクト（2022年8月活動終了）
- ・ ピアサポート
- ・ ACTION（東工大語学パートナー制度）（2023年5月活動終了）
- ・ FLAP（留学促進団体）
- ・ 電子掲示板

- クラウドファンディング窓口

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/extracurricular/crowdfunding>

- 学修コンシェルジュ

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/concierge>

- 学修コンシェルジュ Jr.

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/extracurricular/jobs-campus/concierge-jr>

- 留学生相談窓口

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/news/2021/061332>

- キャリア相談窓口

<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/career/counseling>

- 未来人材応援プロジェクト

<https://sss.ssc.titech.ac.jp/>

IV. 各活動へのリンク（東工大ニュース）

- [「アーティストとアートを体験するセミナー2022 春」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [学修コンシェルジュによる 2022 年度春「新入生ガイダンス」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [未来人材応援プロジェクト「みらい創造チャレンジ」最終報告会を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [改善・改革へ、学生の声を大学に届ける「学勢調査 2022」を実施中 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [IoT 導入教育セミナー「MATLAB × AI ロボティクスワークショップ」を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [大岡山から深宇宙をのぞく 第7回イブニングセミナー「デジタル天体観測会」を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [「2022 秋 新入留学生歓迎レセプション」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [学修コンシェルジュによる 2022 年度秋「大学院課程新入生ガイダンス」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [IoT 導入教育セミナー「機械学習セミナー：画像解析の基礎から応用まで」を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [理工系人材に未来はあるか～東工大生の君はどうする～ 「第2回 Taki Plaza 講演会」を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [「アーティストとアートを体験するセミナー2022 秋」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [第2回 TECH キッキングスタジオ～お菓子作りを科学する～を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [「おおお知るまちプロジェクト」が大岡山をもっと好きになるイベントを開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [第9回イブニングセミナー「デジタル天体観測会」を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [歴史ある公認サークル 東京工業大学管弦楽団がクラウドファンディングを開始 東京工業大学管弦楽団 | 皆様と共に創立 100 年を迎えその先の未来へ！ | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [「IoT セキュリティ体験セミナー」\(2022 年度秋季 IoT 導入教育セミナー第2弾\)を開催 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [「初心者向け Python セミナー」\(2022 年度秋季 IoT 導入教育セミナー第3弾\)を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [博士留学生を対象に「日本語就職面接講座」を実施 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)
- [第16回学生応援フォーラムを開催 学生たちが日頃の活躍を報告 | 東工大ニュース | 東京工業大学 \(titech.ac.jp\)](#)

東京工業大学学生支援センター 年報（2022年度）

2023年8月29日発行

発行者 東京工業大学学生支援センター

〒152-8550

東京都目黒区大岡山 2-12-1
